

2026年3月期 第2四半期 決算説明会

2025年11月11日(火)



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

出席者

- | | |
|--------------|-------|
| ① 代表取締役会長 | 山口 隆 |
| ② 代表取締役社長 | 山口 惣大 |
| ③ 代表取締役専務取締役 | 丸尾 篤嗣 |

2026年3月期 第2四半期 連結決算概要



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役専務取締役 丸尾 篤嗣

2026年3月期 第2四半期 決算ハイライト

売上高 (連結)

✓ 352億円、前同比8.9%増加

国内事業が堅調に推移したことに加え、海外事業の寄与により過去最高を更新

売上原価

✓ 182億円、売上原価率 前同比0.9ポイント増加

国内事業では横ばいとなったものの、海外連結子会社の取込により増加

販売費及び 一般管理費

✓ 143億円、売上高販管費率 前同比1.9ポイント増加

国内医療用医薬品事業における研究開発の進展に伴う費用の増加、販促費の増加等により、販管費率が増加

営業利益

✓ 26億円、前同比20.8%減少

売上総利益の増加を上回る販管費の増加により減益

Hataphar社の売上計上方法の変更について

当社ベトナム子会社 Ha Tay Pharmaceutical Joint Stock Company（Hataphar社）の売上の内、ベトナム国外から仕入れた輸入品をベトナム国内で販売する取引について、これまで総額で売上高を計上していたが、当該取引について改めて検討を行った結果、Hataphar社は顧客に移転する財またはサービスを支配しておらず、これらを手配するサービスのみを提供している「代理人」に該当する取引であると判断

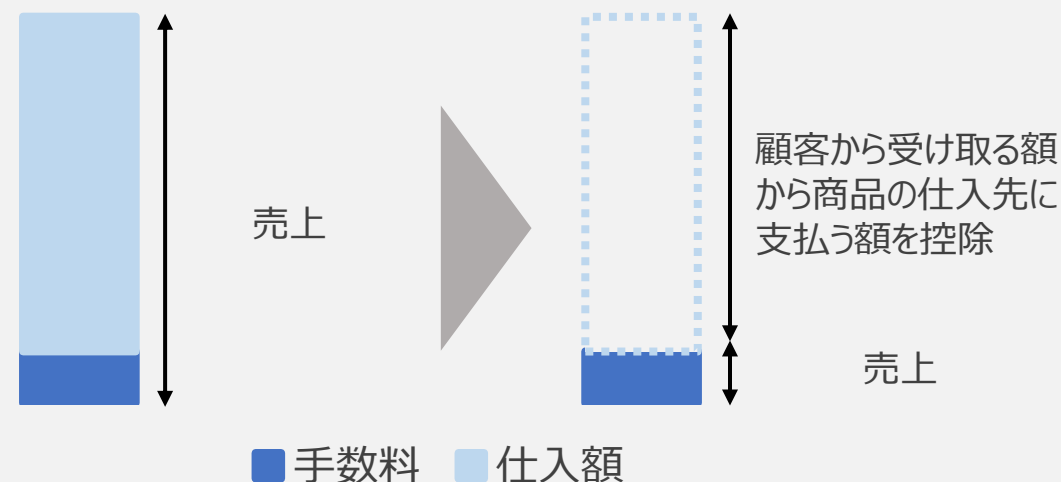
ベトナム国内輸入販売について、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で売上を計上する方法に変更

売上高および売上原価はそれぞれ減少するが、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益等への影響はない

輸入販売の変更イメージ

変更前

変更後



損益計算書（連結）

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	32,371	35,253	2,881	8.9%
売上原価	16,463	18,267	1,804	11.0%
売上総利益	15,907	16,985	1,077	6.8%
販売費及び一般管理費	12,561	14,335	1,774	14.1%
営業利益	3,345	2,649	△ 696	△ 20.8%
経常利益	3,312	2,660	△ 651	△ 19.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,560	2,226	△ 333	△ 13.0%

セグメント別（連結）

単位：百万円

		2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	売上 構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	売上	28,617	29,255	83.0%	637	2.2%
	損益	3,825	3,119	—	△705	△18.4%
アニマルヘルス事業	売上	3,640	3,765	10.7%	124	3.4%
	損益	177	282	—	105	59.7%
海外事業	売上	—	2,133	6.0%	2,133	—
	損益	—	132	—	132	—
その他事業	売上	113	99	0.3%	△13	△11.8%
	損益	△4	△15	—	△11	—
売上合計		32,371	35,253	100.0%	2,881	8.9%

※ Hataphar社を連結子会社化したことに伴い、「海外事業」を新たに追加しております

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初見込	
内科	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	4,052	4,306	6.3%	8,628	6.3%	8,628	薬価上昇に加え数量も増加
	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	4,302	4,026	△ 6.4%	7,800	△ 8.7%	7,112	薬価はダウンしたが数量ベースはほぼ維持
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	3,227	3,880	20.2%	7,517	16.4%	7,458	薬価上昇に加え数量も増加
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	792	825	4.2%	1,629	4.0%	1,629	薬価上昇に加え数量は微増
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	400	404	0.8%	790	△ 0.9%	756	前年度並みで推移
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	5,413	5,692	5.2%	10,949	4.0%	11,241	子宮内膜症でのシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	3,589	4,109	14.5%	8,275	10.3%	6,064	薬価はダウンしたが、想定以上の数量増
	AG	月経困難症治療剤 フリウェル	1,550	1,509	△ 2.6%	2,946	△ 6.5%	2,824	薬価はダウンしたが、数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルデウム	1,143	1,095	△ 4.3%	2,199	△ 6.4%	2,228	他社競合品による影響
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	350	314	△ 10.2%	654	△ 3.2%	669	他社競合品の影響により数量は減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	376	334	△ 11.2%	612	△ 15.3%	580	想定よりも緩やかな減少
	先発品	経口避妊剤 スリンダ	—	119	—	539	—	—	6月30日発売開始
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	2,037	1,908	△ 6.3%	3,814	△ 4.7%	3,814	先発品の影響により数量減少

※1 配合剤を含む ※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値 ※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

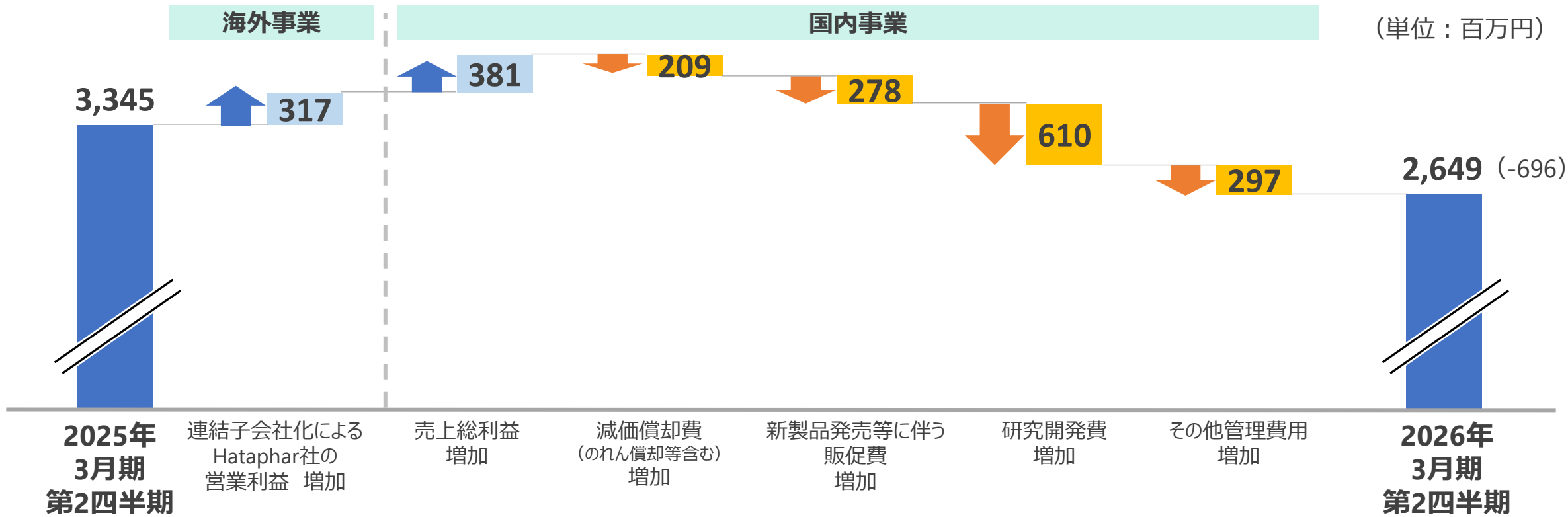
事業分野	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	2,275	2,249	△ 1.1%	4,488	△ 2.1%
動物用医薬品 (畜水産 + CA※)	1,339	1,371	2.4%	2,835	9.0%

主な要因

- 2026年3月期第2四半期は、動物用医薬品が伸長したことで増加
- 2026年3月期通期においても、動物用医薬品の伸長を見込む

※ コンパニオンアニマル

営業利益増減分析（対2025年3月期第2四半期）



主な要因

- Hataphar社連結子会社化に伴う営業利益の取り込みにより増加
- Hataphar社連結子会社化に伴うのれん償却等により減価償却費は増加
- 創薬研究の活発化や臨床試験の早期進展による研究開発費の増加に加え、新製品の発売により販促費が増加

貸借対照表（連結）

2025年 3月末

単位：百万円

流動資産 58,007	流動負債 22,879
有形固定資産 18,709	固定負債 9,453
無形固定資産 10,386	純資産 71,555
投資その他の資産 16,784	
総資産 103,889百万円	

2025年 9月末

単位：百万円

流動資産 57,825 (△182)	流動負債 23,397 (+518)
有形固定資産 19,268 (+559)	固定負債 12,781 (+3,328)
無形固定資産 9,153 (△1,233)	純資産 72,594 (+1,038)
投資その他の資産 22,526 (+5,742)	
総資産 108,773百万円 (+4,884)	



主な要因

- 資産の部 投資有価証券および売掛金が増加
- 負債の部 長期借入金および買掛金が増加
- 純資産の部 親会社株主に帰属する中間純利益の計上による利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加
- 自己資本比率は1.4ポイント低下し61.5%に減少

2026年3月期 通期連結業績予想修正（11月4日公表）

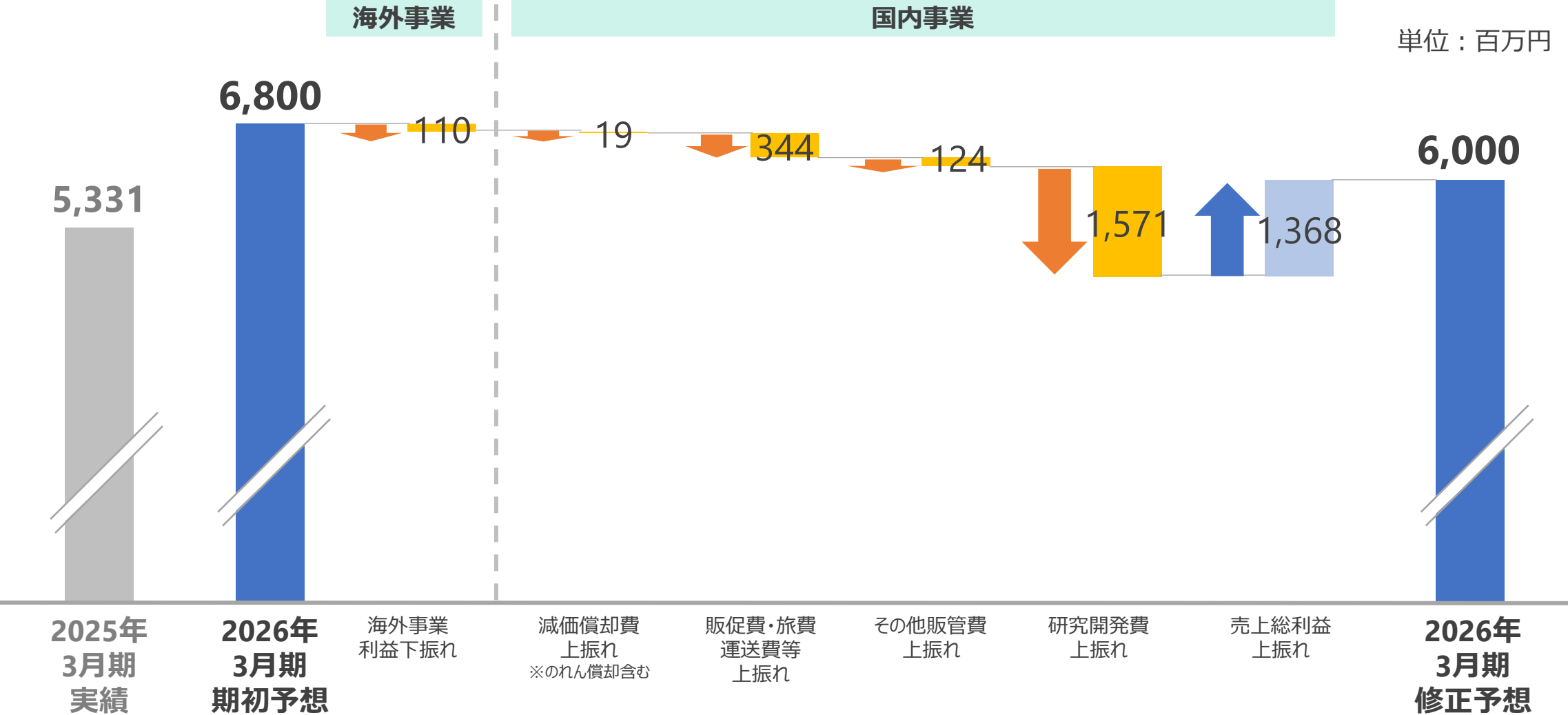
単位：百万円

	2025年3月期 実績	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	64,139	75,000	71,000	6,860	10.7%
営業利益	5,331	6,800	6,000	668	12.5%
経常利益	5,107	6,800	6,000	892	17.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,101	5,200	5,000	△ 101	△ 2.0%

主な要因

- 売上高は、Hataphar社の輸入品販売取引を総額で計上する方法から、純額で計上する方法に変更した結果、2026年3月期予想を下方修正
- 利益面は、将来の成長に向けたパイプラインの拡充および創薬力強化を目的とした研究開発投資の想定以上の増加により、研究開発費等が上振れる見込みに伴い、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも2026年3月期予想を下方修正

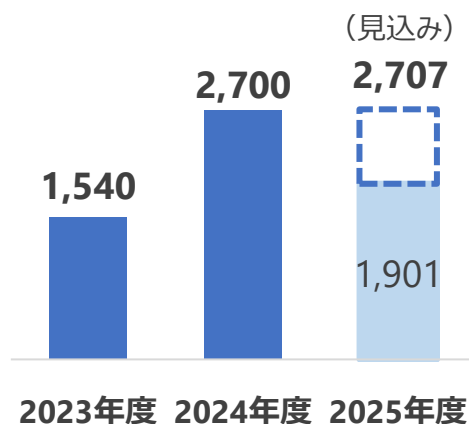
2026年3月期 営業利益予想修正の要因分析（対2026年3月期 期初予想）



設備投資・減価償却費・研究開発費 ※1

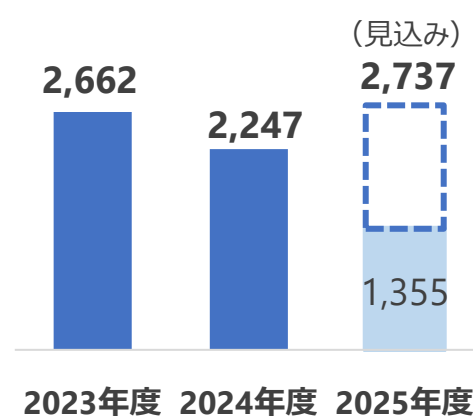
設備投資 (有形・ソフトウェア 編入ベース)

単位：百万円



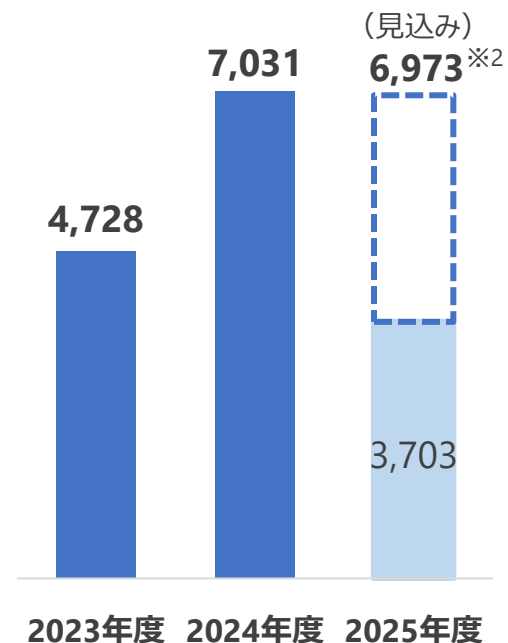
減価償却費 (有形・無形合計)

単位：百万円



研究開発費

単位：百万円



主な要因

設備投資 : いわき工場の主要製剤の内製化に伴う設備投資により、前年度と同水準となる見込み

減価償却費 : いわき工場における改修が完了した製剤棟の稼働に伴い、前年度を上回る見込み

研究開発費 : パイプライン拡充・創薬力強化を目的とした研究開発投資の想定を上回る進捗により、前年度と同水準となる見込み

※1 2025年度より海外子会社を含みます。但し、減価償却費に海外子会社の連結化に伴うのれん償却は含んでおりません

※2 期初公表値（5,402百万円）より修正

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み

1

成長戦略

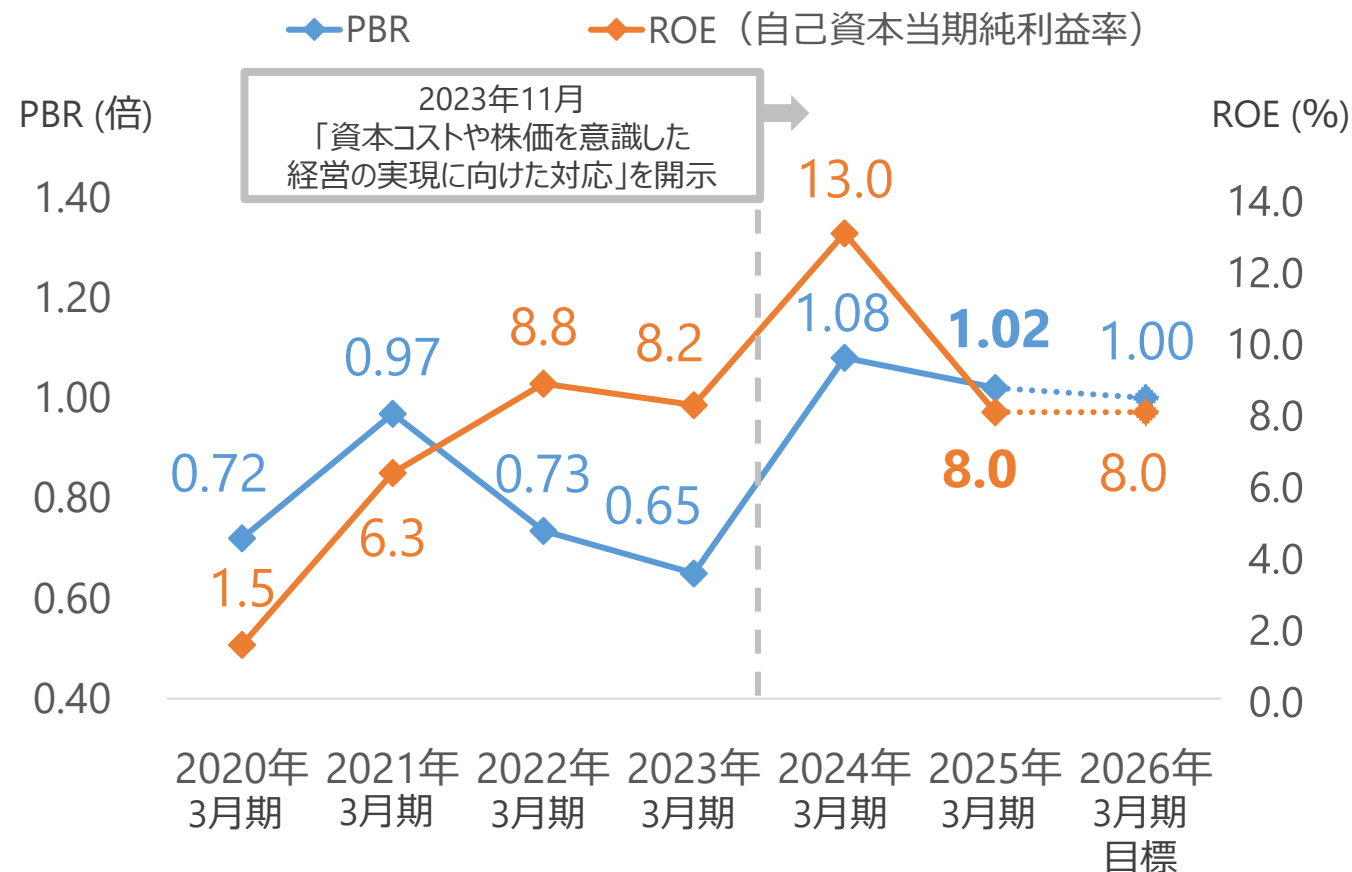
2

株主還元の強化

3

IR活動の強化

上記に加え、
ESG経営の推進などに積極的に取り組み
資本コストや株価を意識した経営を
推進していく



2023年11月の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」開示以降
PBRは改善傾向

※ 2020年～2025年3月期のPBRは期末株価にて算出、2020年～2021年3月期はあすか製薬株式会社、
2022年3月期以降はあすか製薬ホールディングス株式会社

具体的取り組み ①成長戦略（2026年3月期第2四半期）

医療用医薬品事業

- 経口避妊剤スリダ錠
2025年6月に新発売
- AKP-022（レルゴリクス配合剤）
子宮内膜症に対するPhIII試験開始
- MCN-009（過敏性腸症候群治療用アプリ）
株式会社MICINとの共同開発および販売に関する契約締結
- 創薬研究の推進
オープンイノベーションを活用した国内外のアライアンス強化

海外事業

- Hataphar社（ベトナム）
連結した事業運営のもと、製造・開発・人材育成など事業活動を全面的に推進
- MedChoice社（フィリピン）
親会社であるFTS Ambrose社の株式を21%取得し、協業を開始

アニマルヘルス事業

- 動物用医薬品
販売促進による実績伸長
- 飼料添加物
L-イソロイシン等の主要製品シェア拡大

検査・アラウンドピル事業

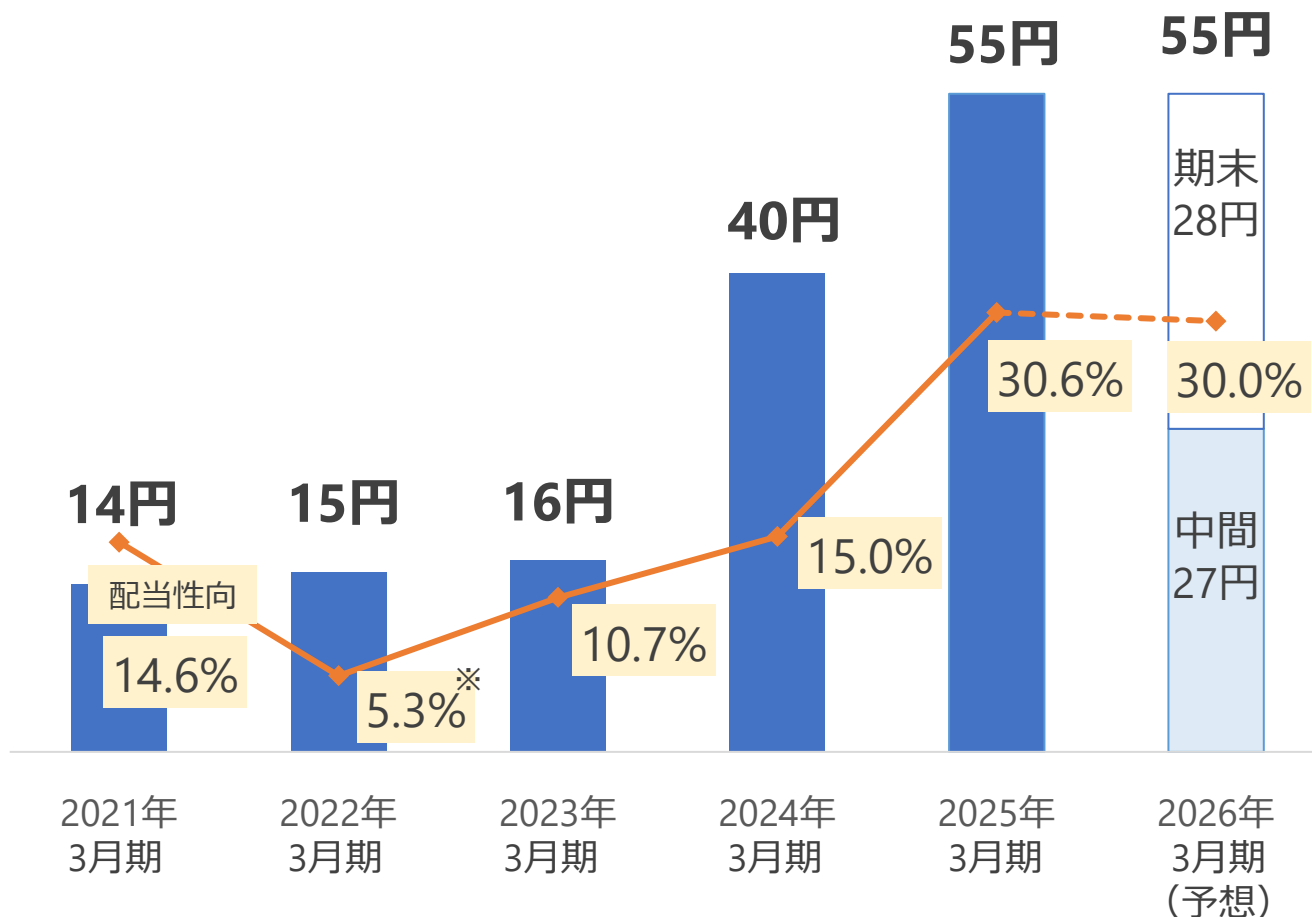
- CVC※（あすかイノベーションファンド）
3件の投資を実行（累計8件）
- 検査事業
非侵襲性測定キットによるヘルスケア事業の展開

成長戦略実施のため、継続した投資を実行

※ Corporate Venture Capital：事業会社が設立した投資会社

具体的取り組み ②株主還元強化

1株当たり配当額推移



株主還元方針

2025年3月期以降は業績連動利益配分として、

- ・連結配当性向30%を目安
- ・一株当たり配当金の下限は年間30円

を設定し、業績に連動した利益還元を行いつつ安定的な配当を維持する方針

【2025年3月期】

2024年3月期より15円増配の年間55円

【2026年3月期予想】

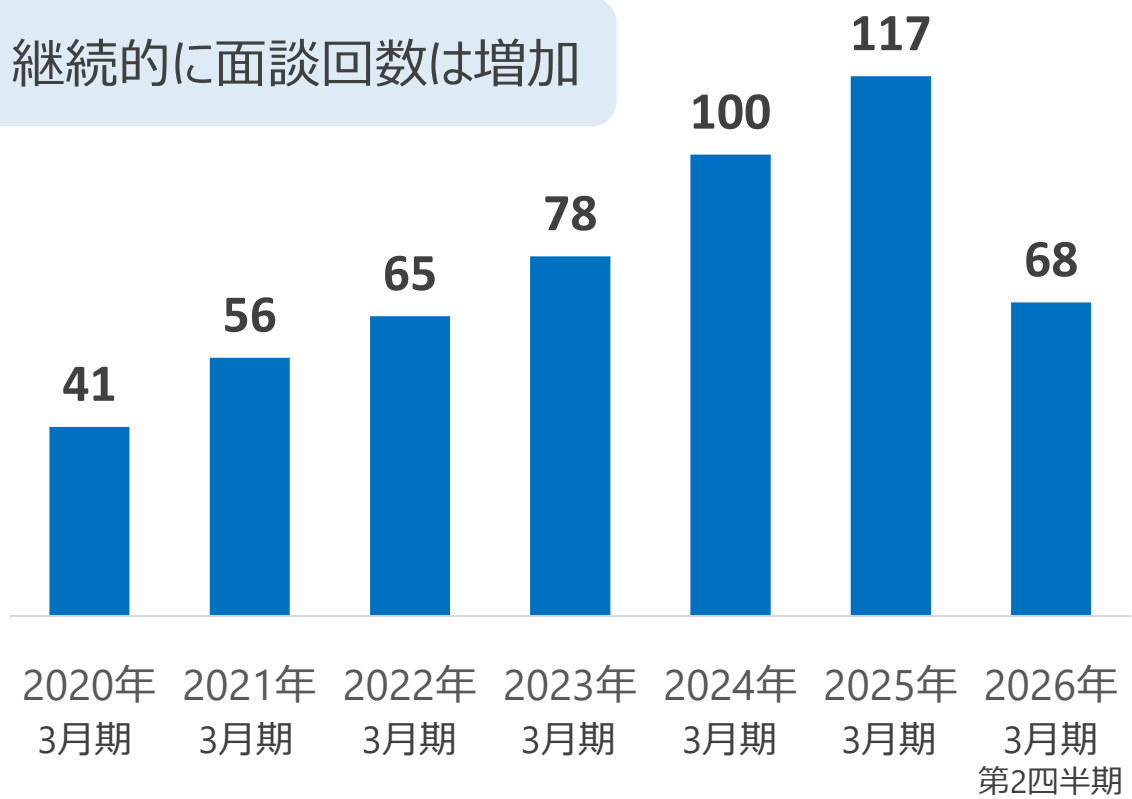
年間55円

上記還元方針を着実に遂行

※ 2022年3月期の中間配当7円は、その他資本剰余金からの配当であり、配当性向から除外して算出しております

具体的取り組み ③IR活動の強化

IRミーティング件数の推移（SR含む）



2025年上期実施のIRイベント

	IFA向け 説明会	個人投資家 向け説明会	メディア向け 説明会 (医師講演)
対象	IFA※	個人投資家	メディア (医薬アナリスト)
目的	IFAを通じた 新たな層に向けた アプローチ	一般個人投資家 に向けた 企業認知向上	メディアに対する 避妊の新たな 選択肢に関する 啓発

※ 独立系ファイナンシャルアドバイザー

今後対話の機会を拡充し、さらなる企業価値向上を推進する

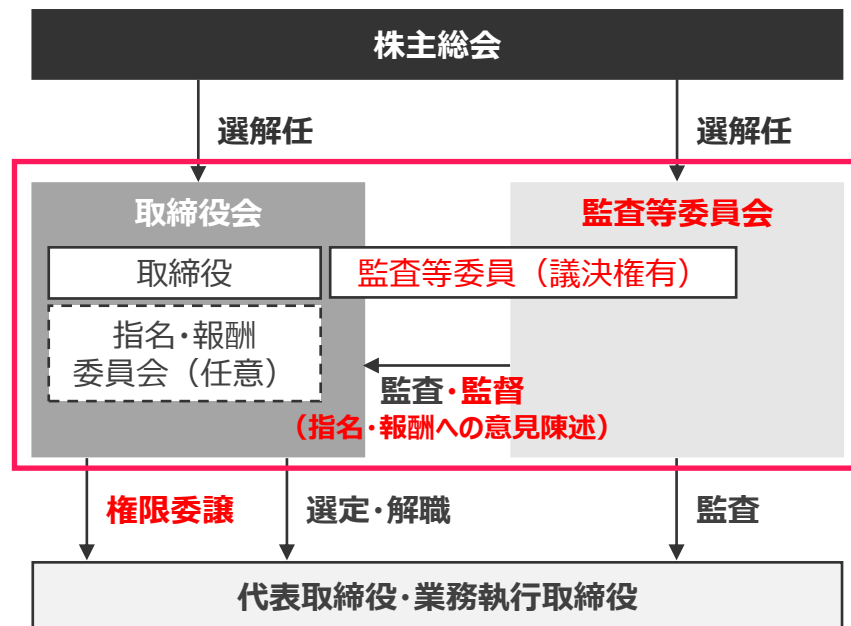
ガバナンス強化の取り組み

コーポレート・ガバナンス

- － 監査等委員会設置会社へ移行 －
- － 取締役任期 1 年、社外役員を過半数へ －

2026年度の定時株主総会で承認可決されることを条件として、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行を検討。監督機能の強化、透明性向上、グローバル化への対応などを目的とし、同時に権限委譲による意思決定のスピードアップを図る。併せて、ガバナンスの強化を目的に、社外役員を過半数にすることを旨とする。

(イメージ) 監査等委員会設置会社



Point

- ① 監督機能の強化
- ② 意思決定のスピードアップ
- ③ 透明性の向上

取締役会の見直し案



2026年3月期 中間報告



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山口 惣大

2026年3月期中間報告 事業別成果

医療用医薬品事業

- 経口避妊剤「スリンダ®錠28」を新発売
- リュープロレリン酢酸塩SR注射用キット11.25mg「あすか」の製造販売承認を取得
- 緊急避妊剤「ノルレボ®」スイッチOTC医薬品として製造販売承認を取得
- AKP-022（レルゴリクス配合剤）の子宮内膜症に対する国内第Ⅲ相臨床試験を開始
- 株式会社MICINと過敏性腸症候群（IBS）治療用アプリの共同開発及び販売に関する契約を締結

海外事業

- 【Hataphar社】新工場の商用生産開始に向けて、PIC/S GMP適合性承認取得のため準備中
- 【MedChoice社】親会社であるFTS Ambrose社への出資により、持分法適用関連会社化

アニマルヘルス事業

- 【CA】トリロスタン錠「あすか」の販売促進による認知向上と実績伸長
- 【畜産】米価格高騰の影響により飼料配合設計が見直され、L-イソロイシン等の飼料添加物製品シェア拡大

検査事業

- 非侵襲性検査事業の拡大（毛髪プロゲステロン測定キット、毛髪テストステロン測定キット）
- 環境汚染物質測定事業の推進（水中有機フッ素化合物（PFAS）測定受託）

各事業が次につながる成果を獲得



あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業



あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業

女性のライフステージ別 産婦人科製品一覧



幼少期	思春期	性成熟期			更年期	老年期
	避妊薬	スリンダ	アンジュ	ノルレボ	更年期障害	ホーリン
	鉄欠乏性貧血	リオナ (コ・プロ※)				
	性感染症	ラピッドエスピー (コ・プロ※)				
	子宮筋腫 子宮内膜症 月経困難症 月経異常	レルミナ	リュープロレリン	AKP-022		
		ジェミーナ (コ・プロ)	フリウエル (AG)	ドロエチ	LPRI-CF113	
		プラノバル	AKP-SMD106	AKP-009		
	切迫流早産 陣痛促進	マグセント リトドリン	マグネゾール アトニン-O	メチルエルゴ メトリン		
	不妊症	HMG注用 ルテウム	uFSH注用 ゴナトロピン	セキソビット		

当社が開発中の産婦人科製品

AKP-022

LPRI-CF113

AKP-SMD106

AKP-009

ラインナップを拡充し
女性医療に貢献

新発売

販売中

開発中

※主に産婦人科領域を対象

成長ドライバー レルミナ（子宮筋腫/子宮内膜症治療剤）

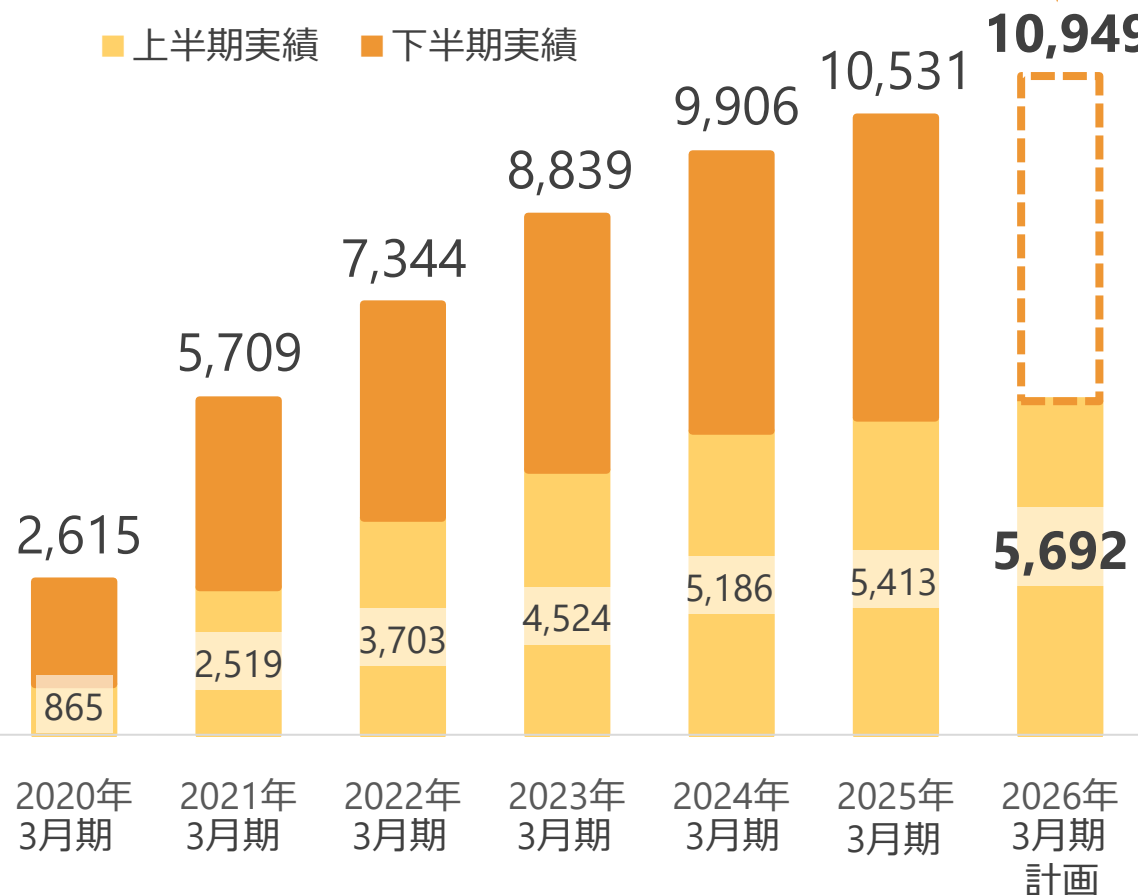


レルミナ売上推移

決算ベース(百万円)

■ 上半期実績 ■ 下半期実績

更なる成長を
目指す



子宮筋腫・子宮内膜症 患者数

(単位：千人)

子宮筋腫	2023年度	2024年度	増加率
薬物治療患者数 (ホルモン剤)	637	678	106.3%
レルミナ服用患者数	150	158	105.2%

子宮内膜症	2023年度	2024年度	増加率
薬物治療患者数 (ホルモン剤)	1,074	1,153	107.4%
レルミナ服用患者数	62	70	112.9%

市場の拡大とともに着実に成長
レルミナのさらなる浸透を図る

拡大を続けるLEP製剤市場

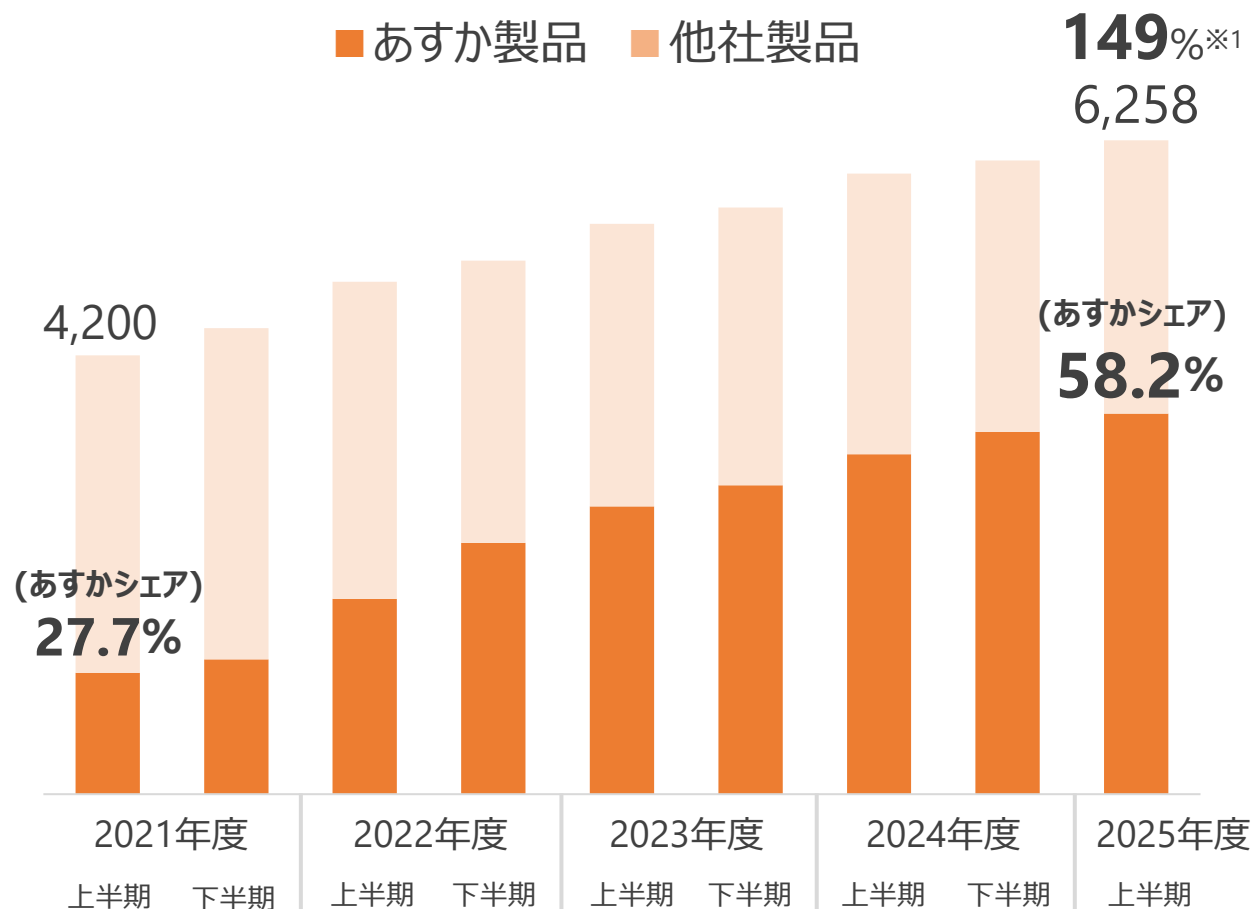


エンサイスデータに基づく自社集計
無断転載禁止

LEP製剤市場推移

(単位：千シート)

■ あすか製品 ■ 他社製品



あすか製薬のLEP製剤一覧※2

ジェミーナ[®] 配合錠
フリウェル[®] 配合錠LD・ULD「あすか」
ドロエチ[®] 配合錠「あすか」

LEP製剤市場の伸長は**ドロエチ**が牽引
市場の伸長とともにシェア拡大

治療選択肢を提供し
女性のQOL・パフォーマンスの向上に寄与

※1 2021年度上期を100%として算出

※2 ジェミーナ配合錠はノーベルファーマ（株）とのコ・プロモーション

経口避妊剤の新たな選択肢 スリンダ



製品特性

ドロスピレノン成分とする
プロゲスチンのみの経口避妊剤（POP※）

臨床上的の特長

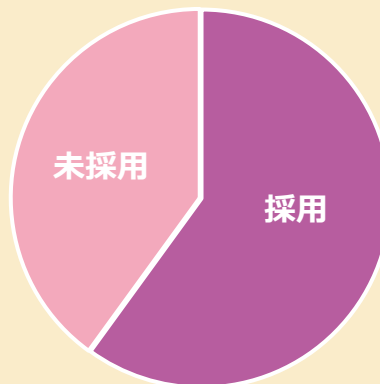
エストロゲン由来の血栓症リスク軽減を期待

活動状況

重点施設*カバー率
約**60%**

6月30日発売以降、早期の採用拡大

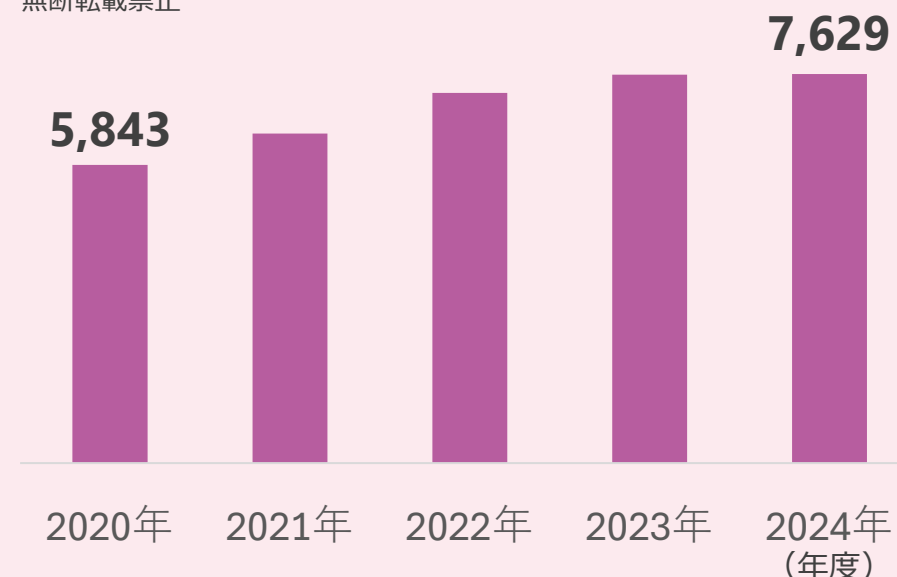
* 経口避妊剤市場の80%以上を占める施設



経口避妊剤市場推移

自社データ及びエンサイスデータに基づく自社集計
無断転載禁止

(単位：千シート)



**血栓症リスクの要因となる年齢・喫煙・肥満等により
従来の経口避妊剤を服用できなかった患者層にも新たな選択肢を提供**

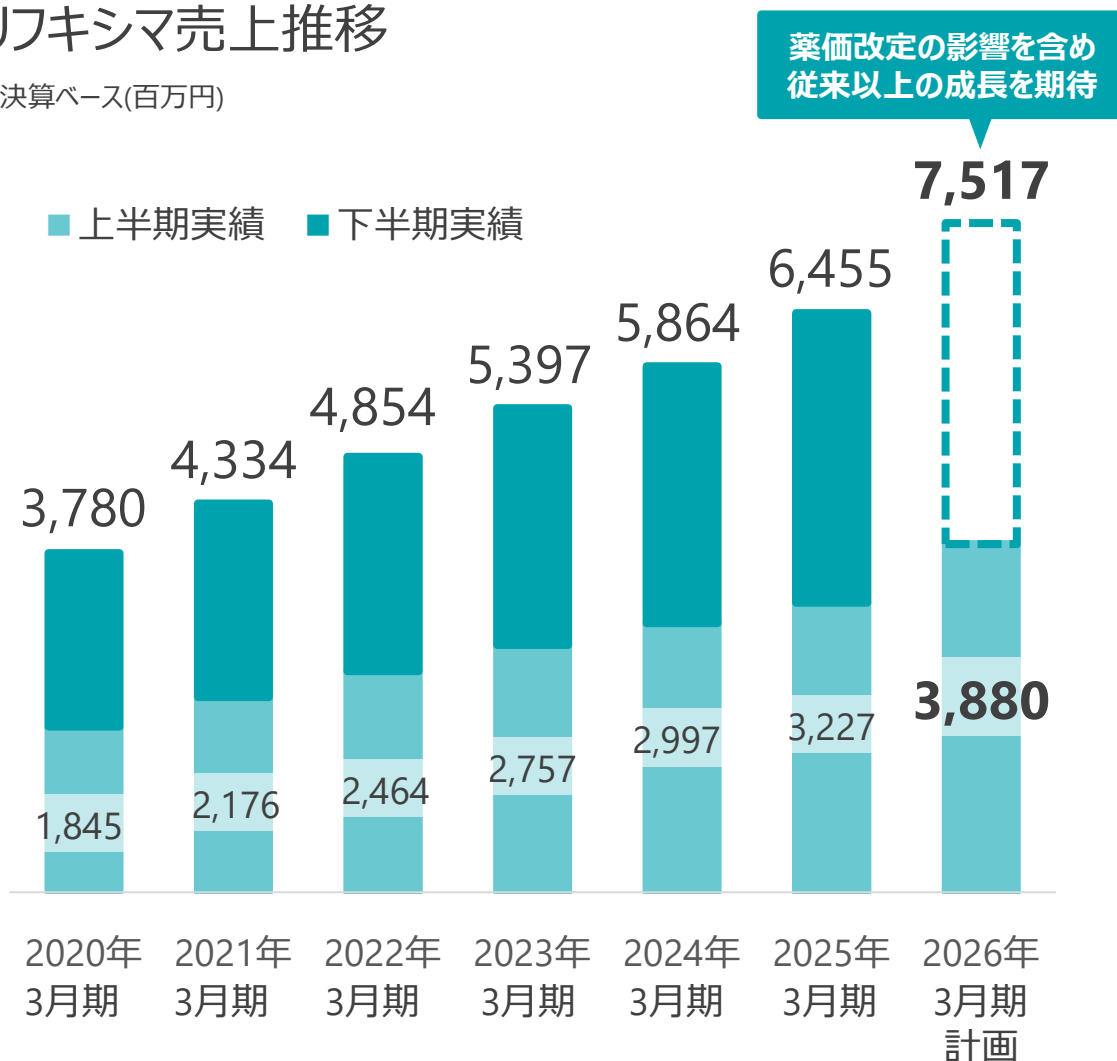
※ POP（Progestin-Only Pill）：単剤型プロゲスチン製剤

リフキシマによるアンメットメディカルニーズへの貢献



リフキシマ売上推移

決算ベース(百万円)



肝硬変診療ガイドライン2020 (2020年11月発刊)

推奨の強さ：強 エビデンスレベル：A

現状

- 医療現場での肝硬変診療ガイドライン浸透
- 不顕性肝性脳症の認知向上

未診断の潜在患者さんが今なお多く存在

医療従事者と連携し早期診断の重要性を提案

基本的治療薬としてのポジションを確立し
患者さん・医療現場のQOL改善に寄与

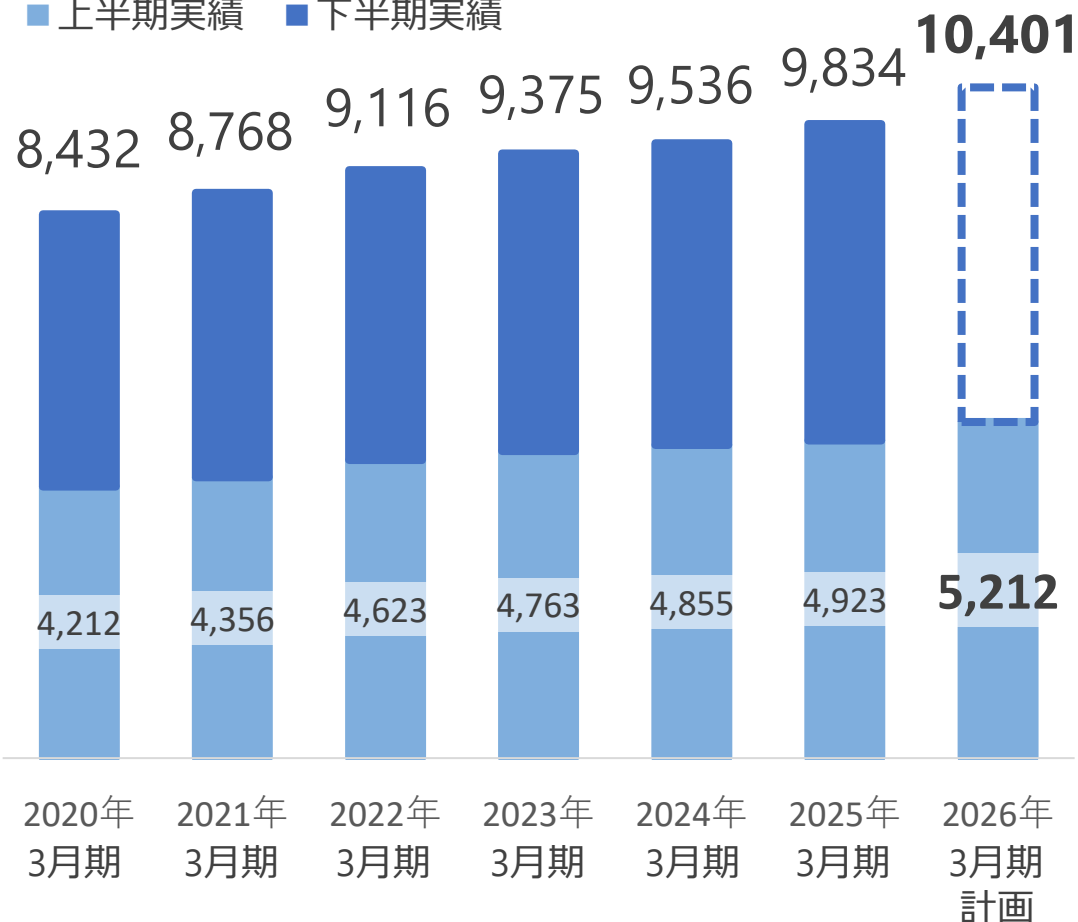
甲状腺のリーディングカンパニーとして



甲状腺疾患治療剤※の売上推移

決算ベース(百万円)

■ 上半期実績 ■ 下半期実績



薬価改定の影響を含め
持続的な成長を見込む

国内甲状腺製品シェア **95%以上**

甲状腺疾患認知向上のため
医療機関以外にも広く活動を展開

活動例

自治体への取り組み

自治体の健康推進担当者向け
Webセミナーを開催

参加自治体：17自治体

➡ 無関心層を含む潜在患者への幅広いアプローチ

先着(各回)
500名様
参加費
無料

女性の健康啓発教材
Webセミナー

自治体における健康イベント担当者様必見!

1回目 2025.8/18(月) 11:00~12:00
2回目 2025.8/27(水) 14:00~15:00
※2回目は録画配信となり質疑応答はありません

『女性のライフステージ』における
知っておいて欲しい健康課題』
教材『知っていますか?女性の一生に深くかわる2つのホルモン』
の解説も含めてご紹介いたします

ほしか あや
星加 彩 先生
株式会社ここさぽ 代表
産婦人科/精神科専門医
労働衛生コンサルタント

未治療の患者さんに治療選択肢を届けるため
疾患啓発活動を継続

※ チラーヂン、メルカゾール、プロパジール

緊急避妊薬 ノルレボ スイッチOTC承認取得



レボノルゲストレル製剤（経口剤）

- 世界保健機関（WHO）より「必須医薬品」に指定
- 世界では約90の国と地域で処方箋なしの購入が可能

スイッチOTC化の経緯

緊急避妊薬に関する情勢

2016年
スイッチOTC化の要望書が提出

2023年
緊急避妊薬試験販売開始



2024年6月
あすか製薬が承認申請

2025年10月
製造販売承認取得
【承認区分】要指導医薬品

販売 体制

第一三共ヘルスケア株式会社が販売

- 発売に向け情報提供体制を整備
- 適正販売・適正使用の推進



2025年10月20日

各 位

会 社 名 あすか製薬ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 山口 惣大
(コード番号 4886 東証プライム)
問い合わせ先 グループ経営企画部長 市川 学
(TEL. 03-5484-8366)

緊急避妊薬「ノルレボ®」スイッチOTC医薬品の 製造販売承認取得および販売に関するお知らせ

当社の子会社である、あすか製薬株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口惣大）は、第一三共ヘルスケア株式会社（本社：東京都中央区、社長：内田高広）と共同で、緊急避妊薬「ノルレボ®」スイッチOTC医薬品（要指導医薬品）の製造販売承認取得および販売に関してお知らせいたします（「ノルレボ®」はPerrigo社の登録商標です）。

本件による2026年3月期通期業績への影響につきましては現在精査中ですので、影響が生じる場合には速やかに公表させていただきます。

以 上

**さまざまな要望に対応し
製薬企業として社会的使命を果たす**



CVCファンド（あすかイノベーションファンド）での貢献



あすかイノベーションファンド

スタートアップ企業とのオープンイノベーションを加速させ、新たな価値創造を目指す

女性の健康課題解決

医薬品研究

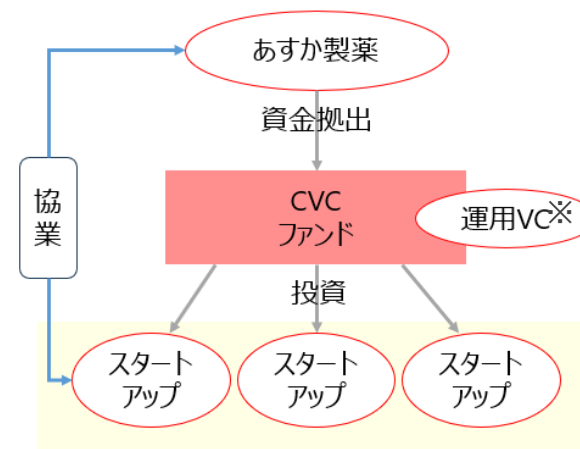
デジタル医療

アニマルヘルス・診断薬

あすかイノベーションファンドの投資先企業

- **fermata株式会社**
「女性のウェルネス」課題を解決・支援する事業
- **株式会社PETOKOTO**
犬猫向けのペットウェルネス事業を展開
- **株式会社Dioseve**
iPS細胞由来の卵巣細胞を利用した生殖補助医療の開発
- **株式会社ファミワン**
妊活等に関する支援サービスを企業・自治体向けに展開
- **株式会社テックドクター**
日常のセンシングデータからデジタルバイオマーカーを開発
- **株式会社アークス**
AIとロボティクス技術を用いた不妊治療支援システムの開発
- **エルピクセル株式会社**
画像解析AIに強みを持ち、創薬候補化合物事業に展開
- **イノバセル株式会社**
失禁の根本治療に特化した自家細胞治療製品の開発

目的・期待
探索（シーズ発見）と深化（事業への期待）



ファンドの概要図

スタートアップ投資を通じて、事業シナジーを創出する

※ Venture Capital：将来成長が見込まれるスタートアップ企業へ出資する投資機関



あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業

開発パイプライン一覧



研究開発の状況（2025年11月時点）

 2025年3月期決算説明会からの変更点

= 産婦人科 = 内科 = 泌尿器科

開発番号（一般名）／領域・効能	研究※1	非臨床※1	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認
AKP-022（レルゴリクス配合剤） 子宮筋腫					PhIII 実施中		
AKP-022（レルゴリクス配合剤） 子宮内膜症					PhIII 実施中		
LPRI-CF113（ドロスピレノン） 月経困難症				PhI/II実施中			
AKP-SMD106（治療用アプリ※2） 月経前症候群・月経前不快気分障害（PMS・PMDD）				特定臨床研究実施中			
AKP-009（ルダテロン酢酸エステル） 多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）				開発準備中			
テーマA / 産婦人科領域							
MCN-009（治療用アプリ※2） 過敏性腸症候群（IBS）					検証的治験※3 実施中		
テーマB / 内科領域							
AKP-009※4（ルダテロン酢酸エステル） 前立腺肥大症				PhII実施中			
AKP-021（mPGES-1阻害剤）			PhI 実施中				
AKP-017（テストステロン経鼻剤）			開発準備中				

※1 研究、非臨床のため詳細は非開示 ※2 薬事上の一般的名称は新設予定のため未定 ※3 医療用医薬品PhIII相当、(株)MICINとの共同開発
※4 AKP-009前立腺肥大症は杏林製薬(株)との共同開発及び販売等に関する契約を解消しました
※ TRM-270は、PhIII終了後の協議により、共同事業化契約を終了しました

主な産婦人科領域パイプラインの概要（2025年11月時点）

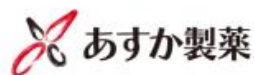


	AKP-022		LPRI-CF113	AKP-SMD106	AKP-009
一般名	レルゴリクス配合剤 (レルゴリクス・エストラジオール・酢酸ノルエチステロン)		ドロスピレノン	—	ルダテロン酢酸エステル
適応症	子宮筋腫	子宮内膜症	月経困難症	月経前症候群・ 月経前不快気分障害	多嚢胞性卵巣症候群
開発状況	PhIII実施中 (2026年12月31日終了予定)	PhIII実施中 (2026年12月31日終了予定)	PhI/II実施中 (2026年1月31日終了予定)	特定臨床研究実施中 (2026年6月30日終了予定)	開発準備中
マーケット情報	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤市場 約321億円※		月経障害治療剤市場 約294億円※	—	—
期待する特長	6か月以上の長期投与が可能な GnRHアンタゴニスト製剤		1日1回の投与が可能な プロゲスチン製剤	アプリを用いた 非薬物療法	次世代のアンドロゲン 受容体モジュレーター

※ 株式会社富士経済「医療用医薬品データブック 2024 No.4」（2023年） 無断転載禁止



株式会社MICINと 過敏性腸症候群（IBS）治療用アプリの 共同開発及び販売に関する契約の締結



2025年8月18日
株式会社 MICIN
あすか製薬株式会社

過敏性腸症候群（IBS）治療用アプリの共同開発及び販売に関する契約の締結について

株式会社 MICIN（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：原 聖吾、以下「MICIN」）と、あすか製薬株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口 惣大、以下「あすか製薬」）は、過敏性腸症候群（IBS）治療用アプリ（以下「本製品」）の共同開発及び販売に関する契約（以下「本契約」）に合意したことをお知らせいたします。

MICIN とあすか製薬は共同で、本製品の上市に向けた準備を進めてまいります。MICIN の治療用アプリ開発プラットフォームや臨床試験実施、デジタルプロダクト浸透に関するノウハウと、あすか製薬が持つ医療用医薬品事業の知見を活かし、消化器領域における新たな治療選択肢の提供を目指します。

過敏性腸症候群（IBS）とは

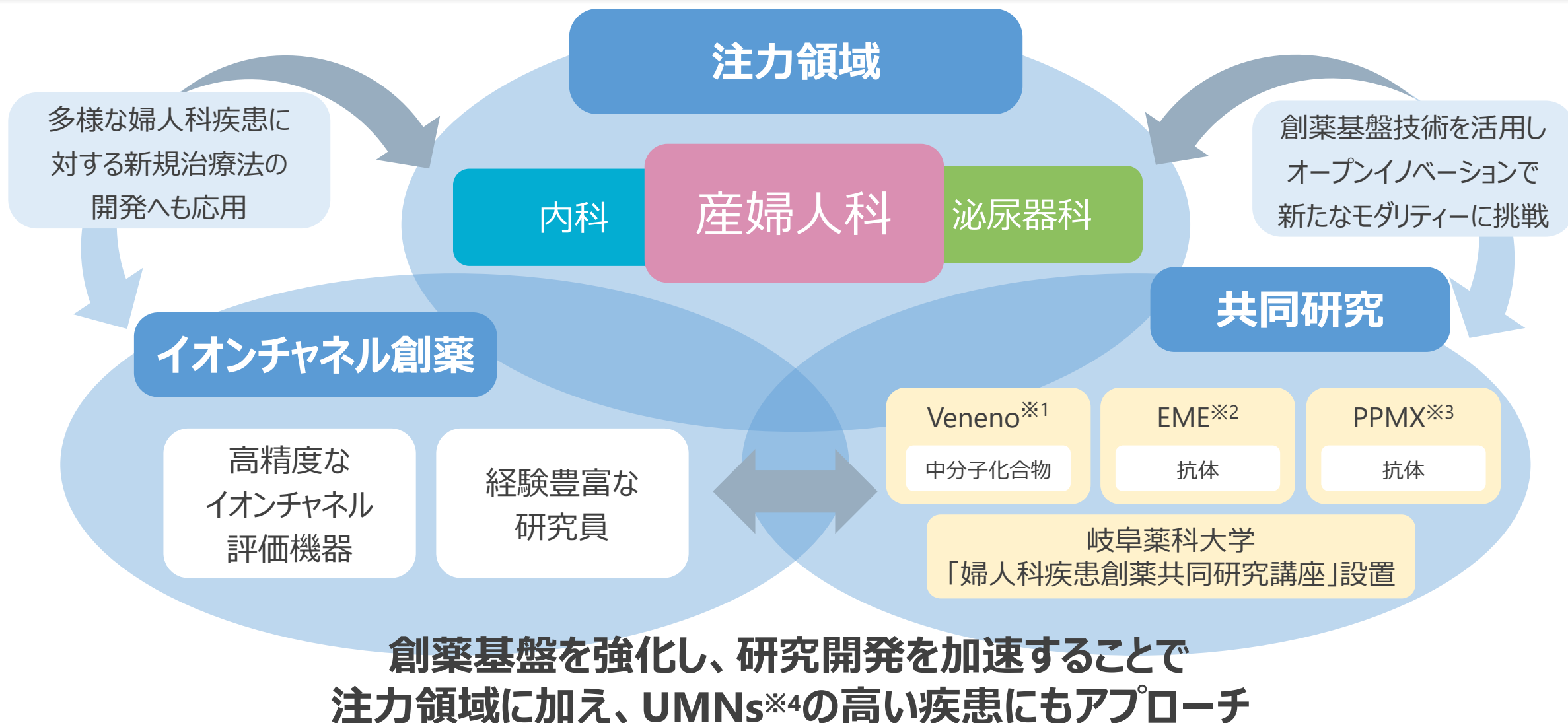
- 大腸や小腸に潰瘍などの器質的異常はないが、腹痛・便通異常などを伴う消化管機能障害
- 日本の推定患者数：約1,200万人（有病率約10%）
- 日常生活に支障をきたすことが多く、QOLを著しく低下させる

MCN-009 臨床試験概要

- 株式会社MICINが検証的治験（医療用医薬品PhIII相当）を実施中
- 薬物療法による症状改善が不十分なIBS患者を対象
- MCN-009が通常治療または対照機器に対して優越性を示すことを検証するとともに、MCN-009の安全性について検討することを目的

新たな治療の選択肢を提供することで患者さんのQOL向上に貢献





※1 Veneno Technologies株式会社
※3 株式会社ペルセウスプロテオミクス

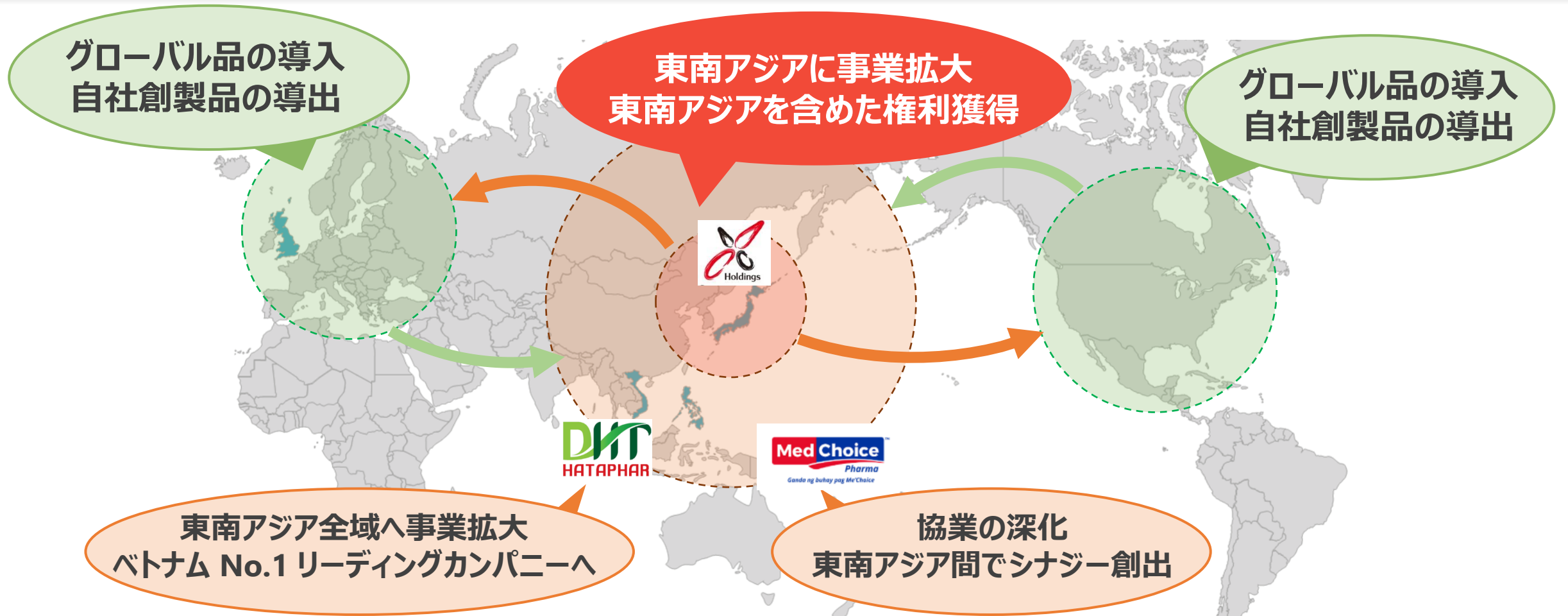
※2 株式会社Epsilon Molecular Engineering
※4 Unmet Medical Needs：未だ満たされていない医療ニーズ



あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業



海外事業を拡大し、さらなる成長を目指す

新工場稼働に向けた取り組み



ベトナムの医薬品入札制度

- ✓ 国・地方省・医療施設による3種類の入札制度
- ✓ 後発品はGMP基準やオリジン等により5段階に分類
- ✓ WHO-GMP基準（現工場製造製品）はG4、PIC/S GMP基準（新工場で製造予定の製品）はG2に分類

カテゴリ		要件	市場規模（円）	製品数	価格
先発品		-	約762億	16,800	High
後発品	G1	EU GMP/同等 ベトナム/先進国オリジン 先進国でのライセンス	約1,569億	41,645	
	G2	EU GMP/同等 PIC/S GMP ベトナム/ICHオリジン	約683億	23,703	
	G3	WHO-GMP BE試験実施	約318億	16,090	
	G4	WHO-GMP	約932億	71,677	
G5		-	約375億	5,722	Low

※市場規模・製品数はベトナム財務省ウェブサイトの情報をもとに自社集計。1VND=0.0061JPY

PIC/S GMP準拠新工場の状況

- ✓ 2025年内にPIC/S GMP監査後、2025年度中にPIC/S GMP適合性承認取得予定
- ✓ 2026年度中に商用生産開始予定

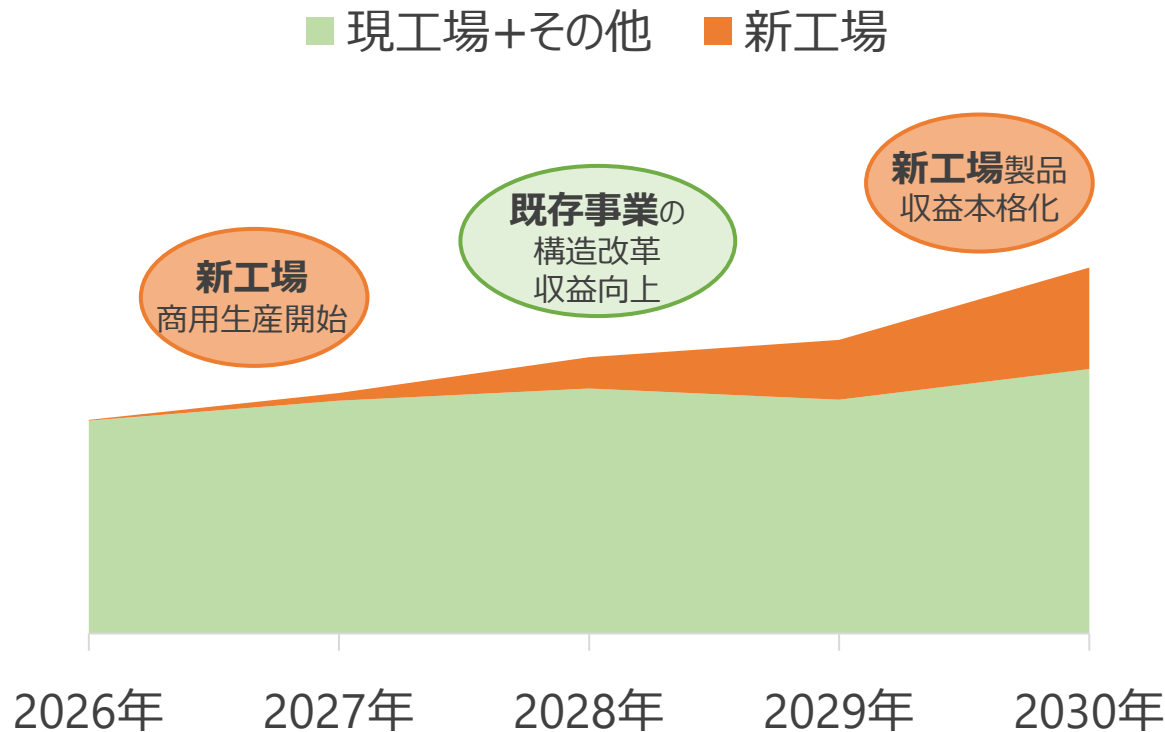


Hataphar社新工場（ハノイ市ホアラックハイテクパーク）

新工場稼働により高品質の医薬品を製造販売することで高収益を目指す



事業別成長イメージ



Hataphar社の成長戦略

- **国際基準に準拠した製造体制の強化**
国際基準であるPIC/S GMPに準拠した製造工場の整備および生産ラインの拡張に向けた継続的な投資を行う
- **専門治療領域における研究開発の推進**
専門性の高い治療領域に焦点を当て、医薬品の研究開発を強化し、ブランド医薬品を製造する製薬企業となることを目指す
- **販売ネットワークの拡充と医療機関との連携強化**
病院、薬局などの医療機関との連携を一層強化し、販売ネットワークを拡大する

ベトナム売上No.1の製薬企業となり、東南アジアでも広く認知される企業を目指す



あすかアニマルヘルス株式会社

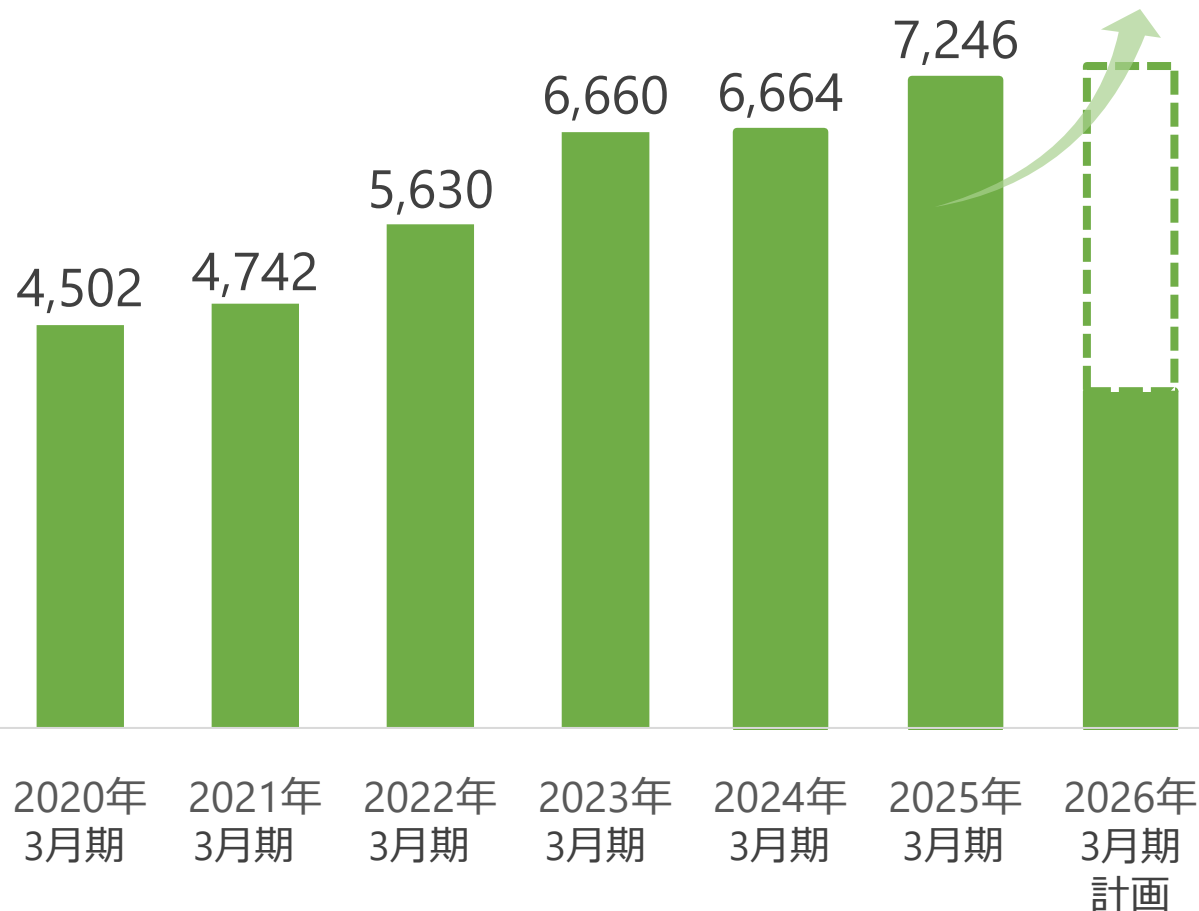
あすかアニマルヘルス 今期計画と売上構成比



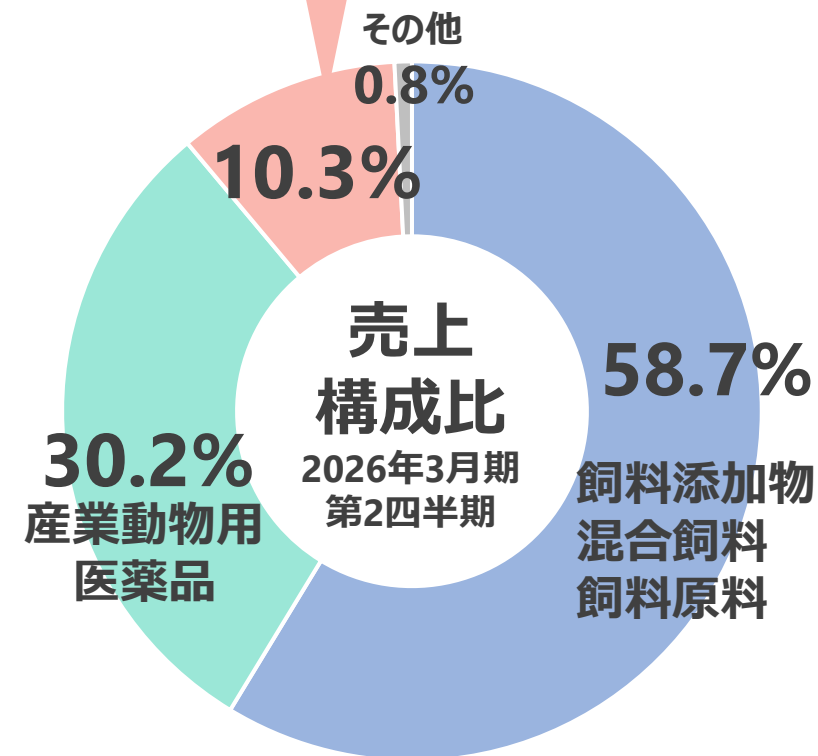
あすかアニマルヘルス売上推移

※決算ベース(百万円)

さらなる成長に向けた
取り組みを継続



コンパニオンアニマル (CA) 関連



コンパニオンアニマル (CA) 用
医薬品の開発を推進



重点取り組み

主力の動物用医薬品の販売に注力した営業活動を展開

産業動物用医薬品

✓ 繁殖用医薬品の販売強化

AI※¹市場に加え、急成長するET※²市場での畜産動物用医薬品の売上拡大を図る

✓ 感染症対策に向けた防疫製品の拡販

生体に優しいヨウ素系殺菌消毒剤の特性を訴求し、積極的な防疫活動による市場浸透を促進する

CA※³用医薬品

✓ 犬・副腎皮質機能亢進症治療剤 トリロスタン錠『あすか』販売強化

オンデマンドセミナーによる学術動画の配信
認知向上と市場シェアのさらなる拡大を図る

飼料添加物

✓ アミノ酸需要の堅調な推移に伴う市場対応強化

L-イソロイシンをはじめとした製品ラインナップで
市場シェアの拡大を図る

人と動物が共生できる社会づくりに貢献する

※1 AI=人工授精（Artificial Insemination） ※2 ET=胚移植（Embryo Transfer） ※3 CA=コンパニオンアニマル





株式会社あすか製薬メディカル



あすか製薬メディカルの強み 内因性ホルモン微量分析技術等

非侵襲性検査事業

毛髪プロゲステロン測定キット

更年期・プレ更年期

- 更年期のセルフチェック
- 肌の潤いやハリ、髪の艶やボリューム
- 体型の変化

女性ホルモン

プロゲステロン



毛髪テストステロン測定キット

男性更年期

- 男性更年期のセルフチェック
- 昔みたいに活力が湧かない
- 筋トレなどの運動の成果確認

男性ホルモンの代表格

テストステロン



更年期・プレ更年期世代への
女性・男性更年期ホルモン検査

導入企業の社員のヘルスケアに貢献

環境汚染物質測定事業

水中有機フッ素化合物 (PFAS) 測定受託開始

生体内で毒性を示すPFASを
10mLの水で測定

高感度のため少量の検体で測定が可能

飲料水の水質向上に貢献

最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献する

次期中期経営計画の 策定に向けて



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山口 惣大

本資料は、2026年度から始まる新中期経営計画における方向性を先立ってお知らせすることを目的として公表いたします。「中長期的な戦略」、「目標値」等は、2025年11月11日時点において暫定的に設定したものであり、2026年5月に新中期経営計画として正式に公表いたします。

ASKA VISION 2035

FY2026 - 2035

～ 日本を基盤にグローバルへ未来を拓くスペシャリティ・ヘルスケアカンパニーへ ～



2025年11月11日

あすか製薬ホールディングス株式会社

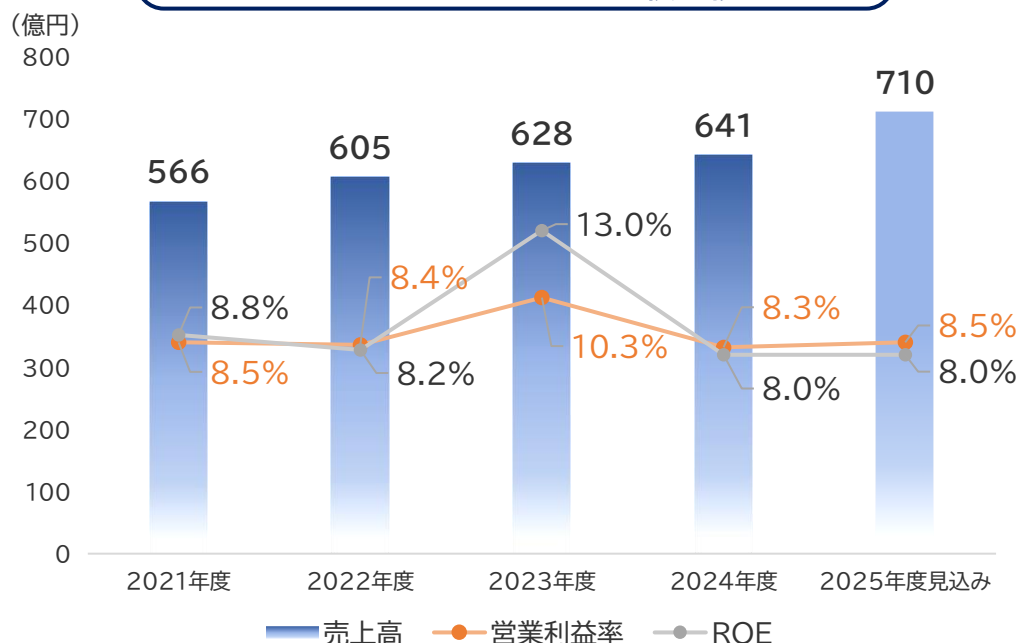
中期経営計画2025の進捗

4つのビジョンのもとに2025年度数値目標として掲げた「売上高700億円」、「営業利益率8%」、「ROE8%」は達成見込である。

4つのビジョン

1. 医療用医薬品を軸に事業スコープ(領域・地域)を拡大する
2. オープンイノベーション推進により業務革新を実現する
3. 中核となる国内医薬品事業(スペシャリティ領域)で国内トップを確立する
4. 社会から信頼される会社であり続ける

中期経営計画2025の実績推移



売上高

2025年度見込み

710 億円

目標: 700 億円

- 先発品を中心に医療用医薬品事業は堅調に推移
- 産婦人科領域売上No.1を達成
- アニマルヘルス事業は売上70億円超を達成
- Hataphar社連結が売上に寄与

営業利益率

2025年度見込み

8.5%

目標: 8%

- 製品ミックスの改善による売上総利益の向上
- 原材料費や調達コストの削減による原価低減
- 設備投資による生産効率の改善

ROE

2025年度見込み

8.0%

目標: 8%

- 営業利益率の改善に伴いROEが向上
- 新たな株主還元方針の導入や戦略的な借入の活用などにより財務レバレッジを最適化
- 遊休資産や政策保有株式の売却による資本効率の改善



重点テーマの進捗と成果

中期経営計画2025における重点テーマとして掲げた「7つの戦略」は概ね計画通りの進捗である。産婦人科領域における年度売上No.1の達成、研究開発体制の強化、Hataphar社やMedChoice社との協業を起点とした東南アジアへの事業展開などを中心に成果を獲得できている。

戦略1 スペシャリティ領域の取り組み強化による企業価値向上

主な成果

- ・産婦人科領域 年度売上No.1を継続
- ・甲状腺領域での圧倒的なシェアを維持
- ・治療用アプリの開発など新規モデルへの挑戦

戦略2 先端創薬による新薬の継続的創出

主な成果

- ・スリンダ錠の発売
- ・AKP-022のPhⅢ開始
- ・LPRI-CF113のPhⅠ/Ⅱ開始
- ・自社創製品(AKP-021)のPhⅠ開始
- ・イオンチャネル創薬基盤技術の導入

戦略3 海外事業の展開

主な成果

- ・ベトナム Hataphar社の連結子会社化
- ・フィリピン MedChoice社の持分法適用会社化
- ・東南アジアを中心とした海外事業基盤の構築

戦略4 トータルヘルスケア実現に向けた新たな価値提供

主な成果

- ・CVCによる出資(8社)
- ・PFASの測定受託開始
- ・非侵襲性ホルモン量測定キットの上市
- ・コンパニオンアニマル用医薬品の上市
- ・新規飼料添加物の上市

戦略5 業務効率化、コスト削減、財務基盤の強化

主な成果

- ・原価低減施策の継続(2020年度54.0% → 2024年度51.1%)
- ・不採算製品ポートフォリオの適正化
- ・DXの推進による効率化
- ・資金調達枠の確保による財務基盤の安定化

戦略6 コンプライアンスの徹底と信頼性を重視する組織風土の醸成

主な成果

- ・HD体制とガバナンス強化
- ・品質マネジメントレビューの継続
- ・GMP品質マネジメントレビューの継続
- ・コンプライアンス研修の継続実施

戦略7 成長戦略を実現するための人材育成

主な成果

- ・柔軟な働き方の拡充
- ・リスクリング機会の提供
- ・各種研修の充実
- ・グローバル人材育成プログラムの開始
- ・次世代リーダー育成プログラムの開始

残された経営課題と対応策

現時点で残された経営課題は以下の通りである。これらを中心に取り組むことで、あすか製薬ホールディングスの持続的な成長を目指す。



事業課題

トータルヘルスケアに関連する国内外の課題

さらなるスペシャリティ領域の取り組み強化

AI・デジタルの活用を通じて情報発信力を高め、組織・人員体制の強化を通じて顧客ニーズを充足することで真のリーダーを目指す

開発パイプラインの拡充

医療用医薬品事業の持続的成長を見据えて研究・開発戦略を強化し、継続的な新薬創出、新たな成長ドライバーの獲得、継続的な製品上市を目指す

海外事業の収益化

ベトナム Hataphar社での事業を早期に収益化するとともに、フィリピン MedChoice社との協業を起点とし、さらなる成長を目指す

新たな成長機会の獲得

医療ニーズの多様化に対応し、アラウンドピル(医薬周辺領域)での事業を確立し、新たな成長機会を獲得する



経営基盤課題

事業計画の遂行に不可欠な事業基盤に関連する課題

次世代人材の育成・獲得

自律的にキャリアを形成する成長機会の提供、新卒採用・キャリア採用を通じて持続的成長を支える人材基盤を強化する

経営資源の最適配分

自己資本と有利子負債のバランスを見直し、レバレッジを効かせた成長領域への重点的投資を果敢に実行する

キャッシュ・フローの改善

原価低減や販管費の最適化によって営業キャッシュ・フローの改善を図り、健全な財務基盤を構築する

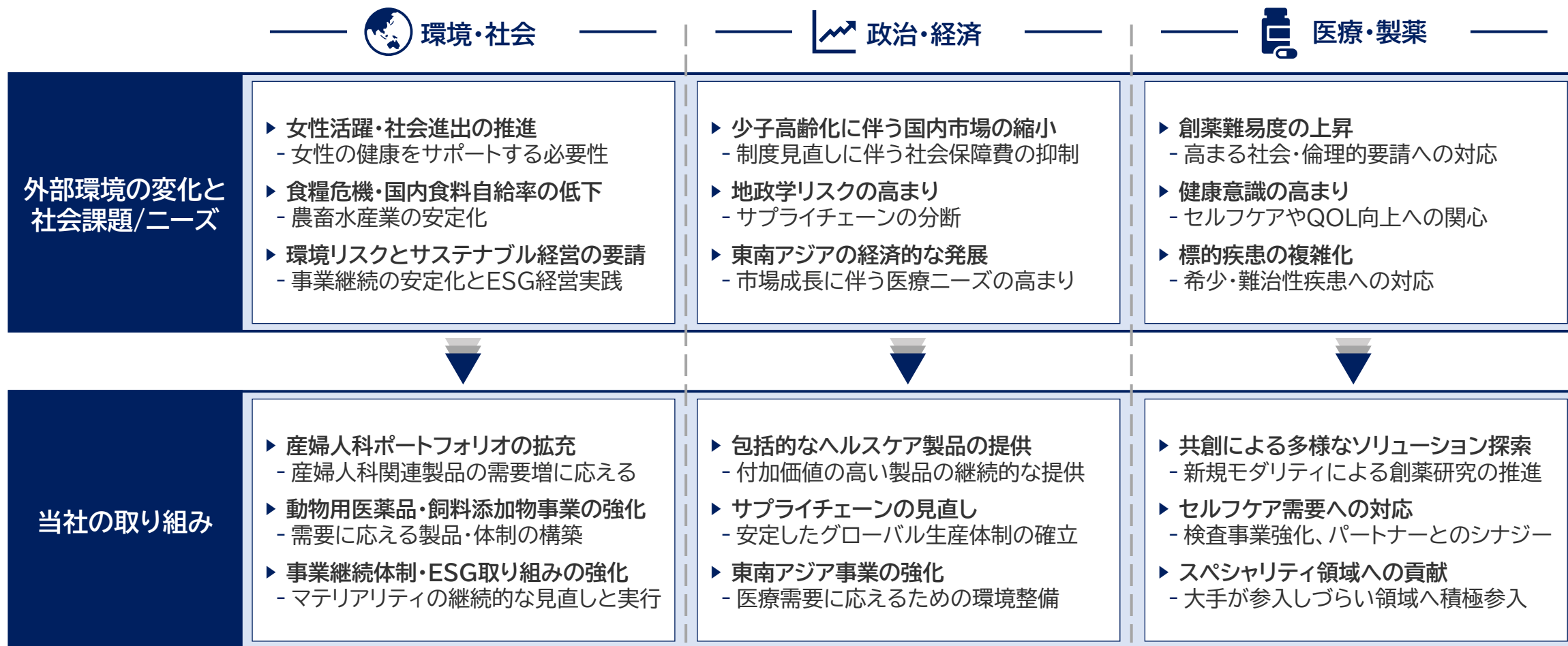
業務効率化

DXの推進等によって業務を効率化し、コア業務へ注力することで生産性の向上を図る



予測される事業環境の変化と当社の取り組み

持続的な成長に向けて、残された経営課題だけでなく外部環境の変化に対応することが重要である。「少子高齢化による国内市場縮小」等の事業環境の変化だけでなく、「女性活躍推進」や「健康意識の高まり」といったポジティブな変化も予測される。



2035年に目指す提供価値

各事業の取り組みを通じて、2035年に目指す提供価値を以下に示す。

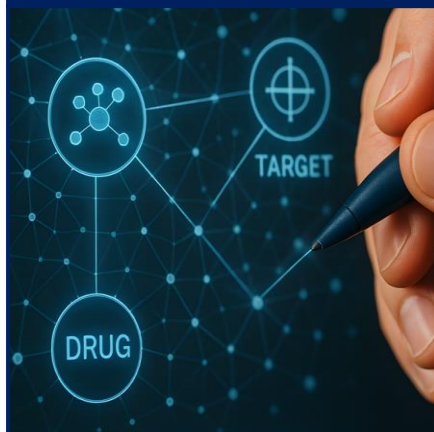
提供価値

国内医療用医薬品



性の健康課題に向き合い、より健やかな社会をリードする企業となる

創薬



あすか独自の創薬プラットフォームを通じた自社創製品の上市/パイプライン拡充や海外導出が進んでいる

グローバル展開



スペシャリティ領域で価値を創出し、アジアを中心にグローバル市場でプレゼンスを発揮

アニマルヘルス



ユニークな製品やソリューションを通じて、持続可能なアニマルヘルスを実現する

検査・アラウンドピル



検査・医療機器等による予防・診断・治療・予後管理を通じて、トータルヘルスケアへ貢献する

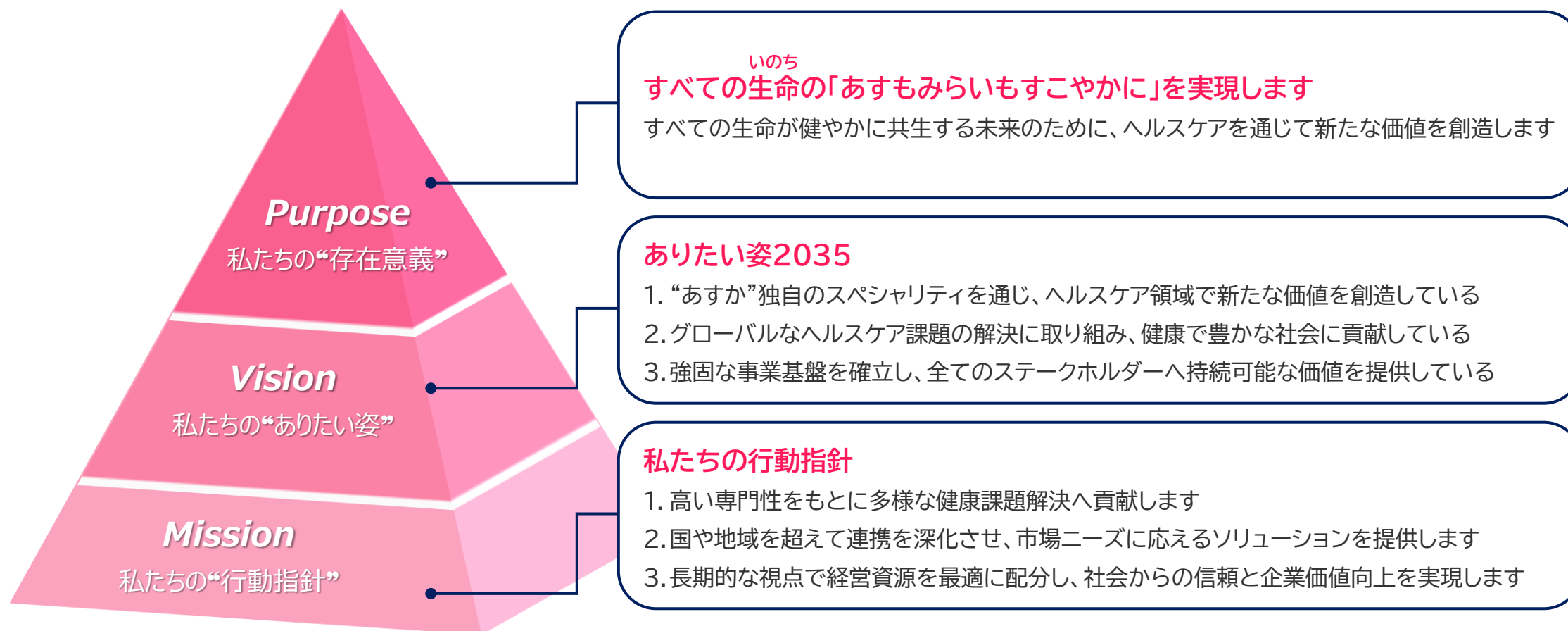
— あすかグループのコア・コンピタンス※ —

「専門性の高い人材・組織力」 「ステークホルダーからの確かな信頼」 「スペシャリティ領域における確固たるプレゼンス」

※ 競争優位の源泉となる自社の中核的な強み

あすか製薬HDのありたい姿2035

持続的な成長を遂げ、10年後もあすか製薬HDが社会に貢献することを目指して“ありたい姿2035”を設定した。パーパスドリブンによる事業遂行によって“ありたい姿2035”を実現し、ステークホルダーへ価値を提供していく。



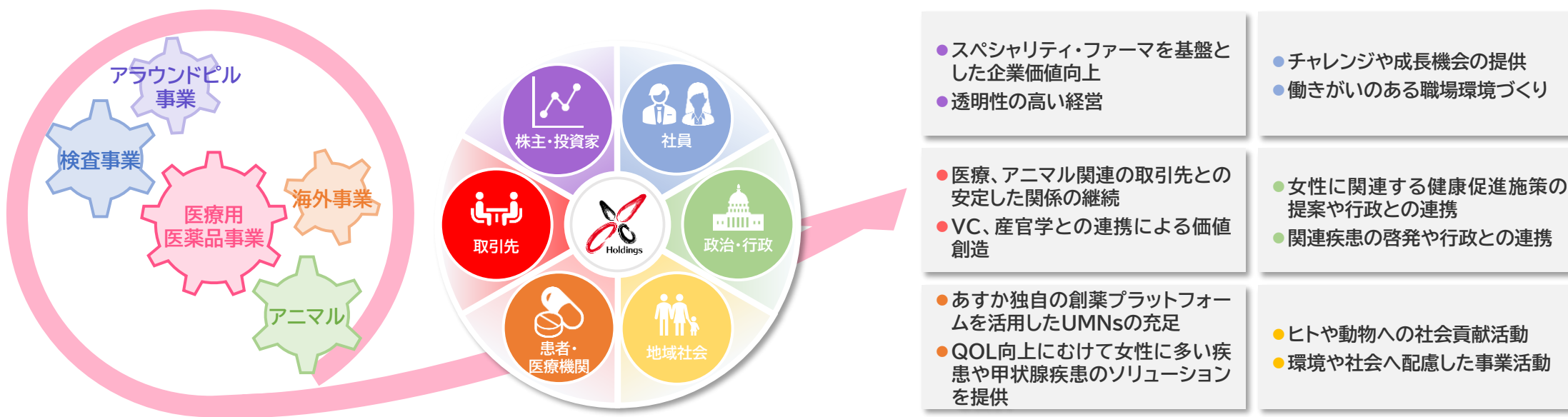
価値創造プロセス

ありたい姿2035の実現

アウトカム

- ① “あすか”独自のスペシャリティを通じ、ヘルスケア領域で新たな価値を創造している
- ② グローバルなヘルスケア課題の解決に取り組み、健康で豊かな社会に貢献している
- ③ 強固な事業基盤を確立し、全てのステークホルダーへ持続可能な価値を提供している

価値提供



インプット

人的資本
高い専門性と多様性

財務資本
財務基盤と積極投資

知的資本
蓄積されたノウハウ

製造資本
クオリティカルチャー

社会関係資本
強固な顧客基盤

自然資本
持続可能な社会貢献

重要課題

6のマテリアリティ

1 環境経営の推進

2 企業価値向上のための
多様な人材の育成

3 女性の健康とアニマル
ヘルスに貢献する

4 高品質な製品の安定
供給と適正情報提供

5 人権の尊重

6 ガバナンス強化



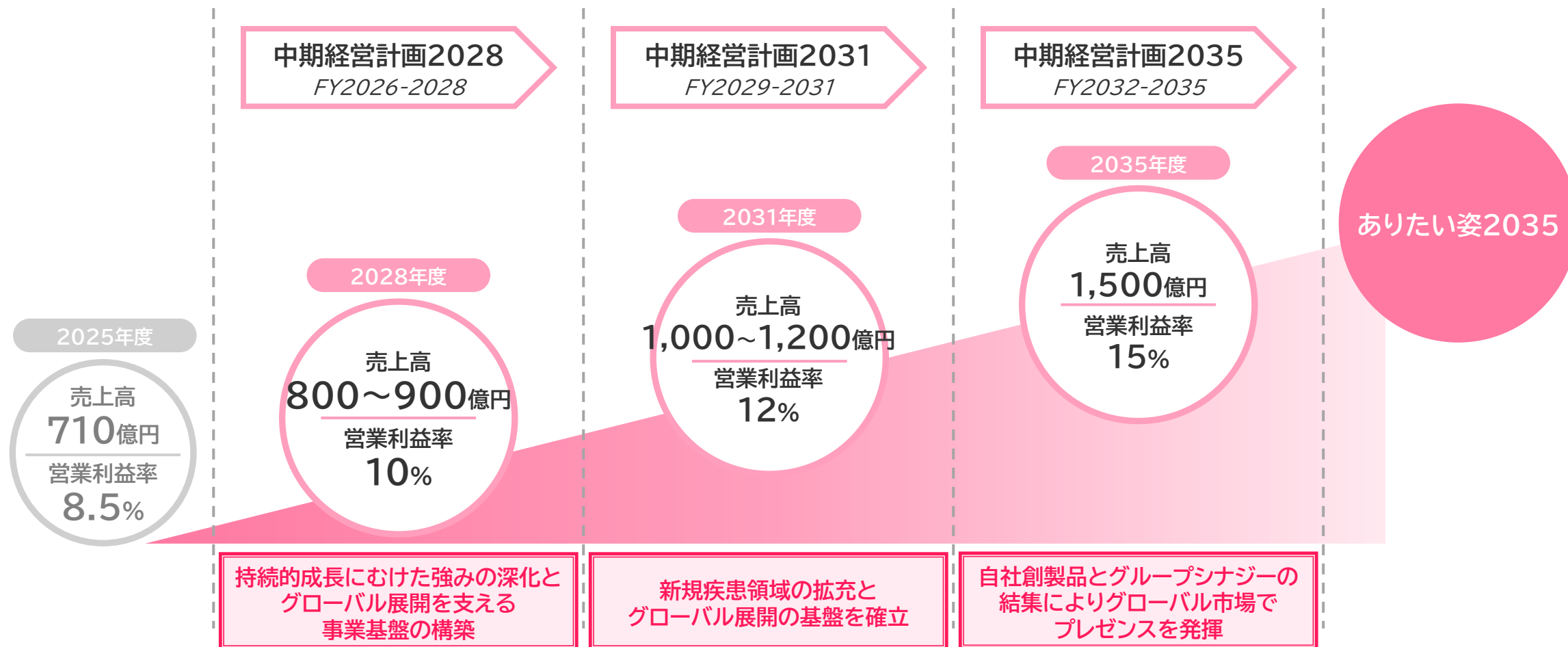
ありたい姿2035に向けたロードマップ

10年後のありたい姿を実現するためのロードマップとして、国内外で展開する「医療用医薬品事業」、「アニマルヘルス事業」、「検査事業・アラウンドピル事業」の事業活動を以下に示した。



ASKA VISION 2035のマイルストーン

あすか製薬HDの長期的な目標として「ありたい姿2035」を設定した。急激な事業環境の変化へ柔軟に対応するために中期経営計画の期間を3年とした。「中期経営計画2028」は長期的な目標を達成するために重要な位置付けである。着実な中期経営計画の遂行によって、2028年度目標値および売上高1,000億円を早期に達成する。



中期経営計画2028の概要

スローガン

持続的成長にむけた強みの深化とグローバル展開を支える事業基盤の構築

これまで培ってきた強みと専門性をさらに深化させるとともに、アジアを中心としたグローバル展開を支える事業基盤の構築を着実に進め、将来の持続的な成長とグローバル競争力の確立を目指します。

2028年度
財務目標

< 売上高 >
800～900億円

< 営業利益率 >
10%

< ROE >
10%

< 総還元性向 >
40%

基本方針

事業戦略

- 医療用医薬品事業の強化
- 事業ポートフォリオの拡充
- 海外事業の進展

財務戦略

- キャッシュ・アロケーションの最適化
- 資産ポートフォリオの見直し
- レバレッジの活用
- 総還元性向40%を基軸に機動的な自己株買いを検討

経営基盤強化

- 次世代人材の育成・獲得
- ESG経営の推進
- DXによる生産性向上
- ガバナンス強化による安定的な経営

行動指針

1. 高い専門性をもとに多様な健康課題解決へ貢献します
2. 国や地域を超えて連携を深化させ、市場ニーズに応えるソリューションを提供します
3. 長期的な視点で経営資源を最適に配分し、社会からの信頼と企業価値向上を実現します



あすか製薬ホールディングスグループ
コーポレートメッセージ

あすも、みらいも、すこやかに



あすか製薬ホールディングス株式会社

重要な注意

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

参考情報

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

業績

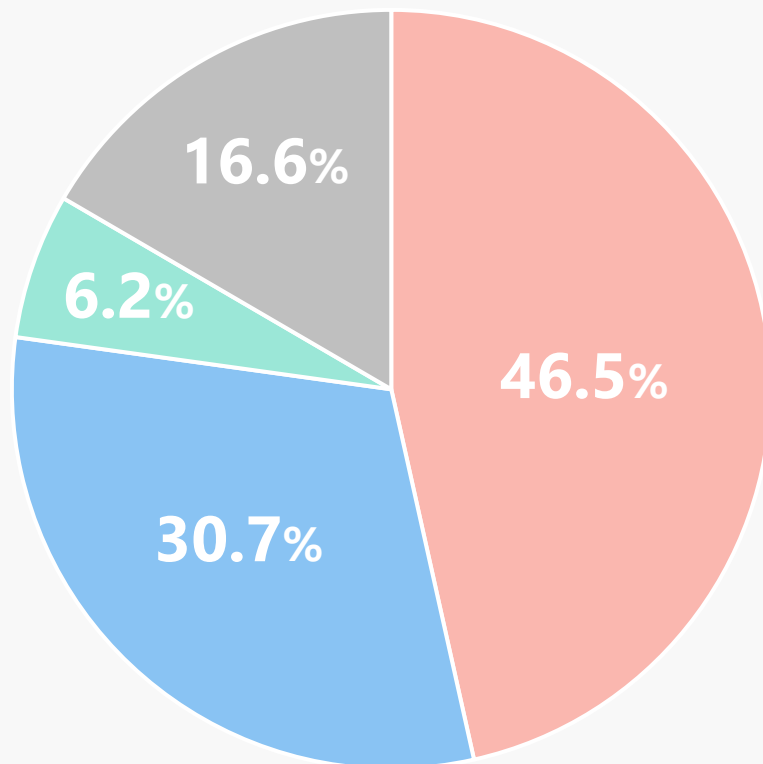
スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

領域別売上高比率※ (2026年3月期 第2四半期)



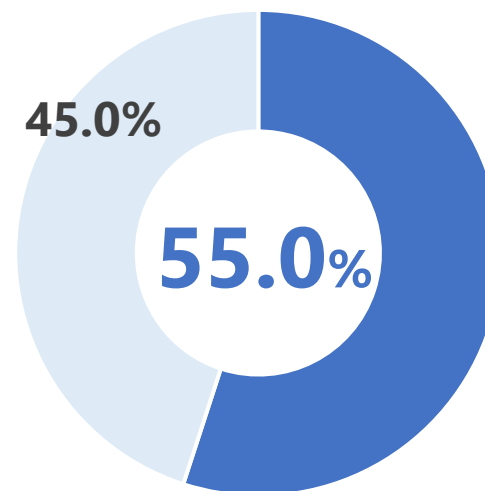
■ 産婦人科 ■ 内科（消化器・甲状腺） ■ 泌尿器科 ■ その他内科等

小数点以下第2位を四捨五入しているため合計しても100にならない場合があります

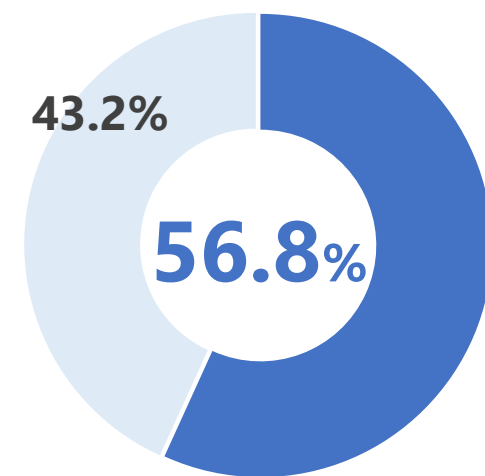
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2025年3月期
第2四半期



2026年3月期
第2四半期



先発品比率の向上を目指す
(中期経営計画目標数値70%)

※ 2025年3月期第2四半期より内科領域の品目を見直し、一部製品を「その他」から「内科（消化器・甲状腺）」へ移行

あすか製薬 過去15年の業績振り返り（連結）

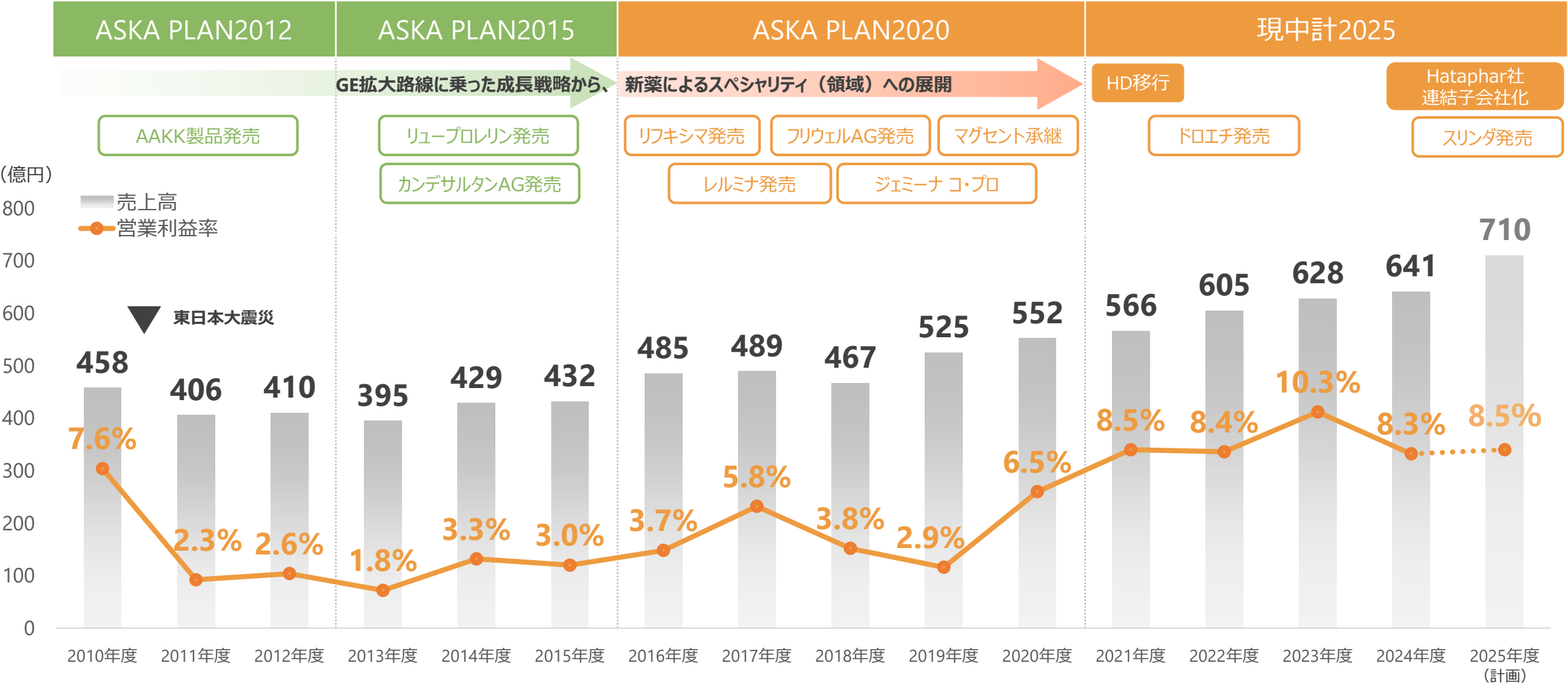
業績

スペシャリティ

研究開発

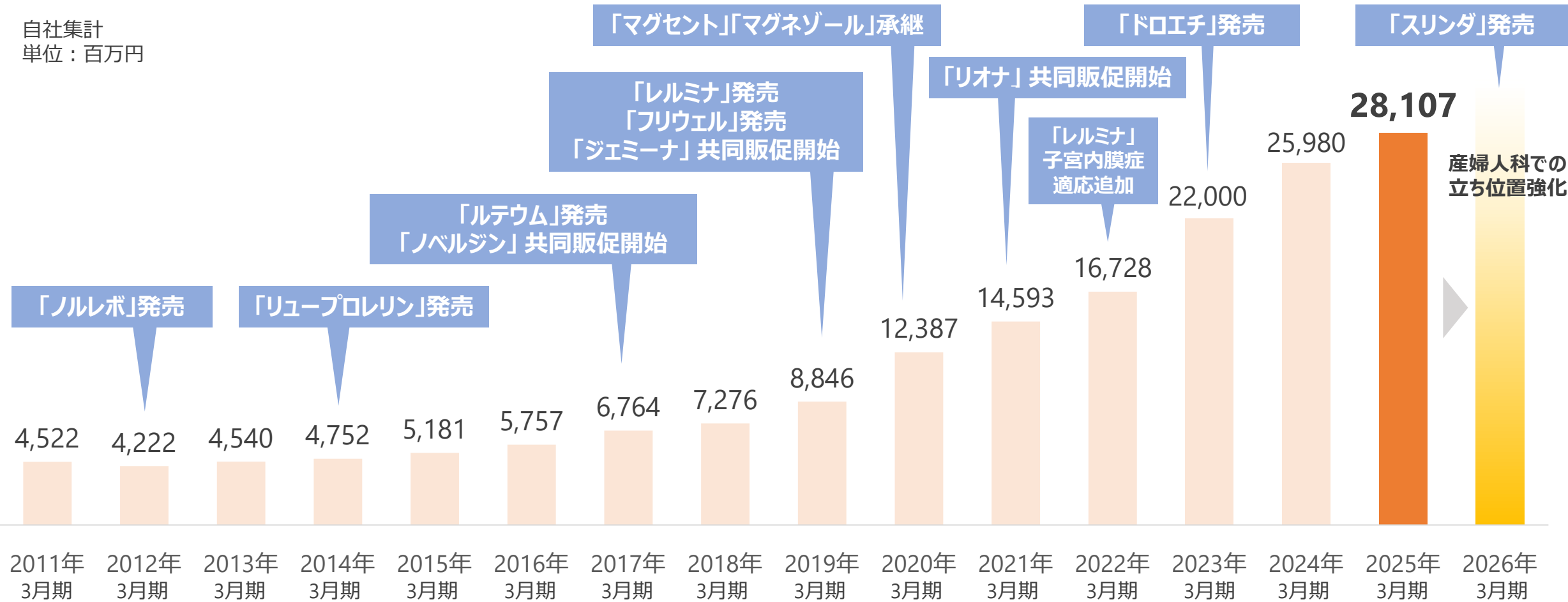
海外

ESG他



あすか製薬の産婦人科製品売上推移

自社集計
単位：百万円

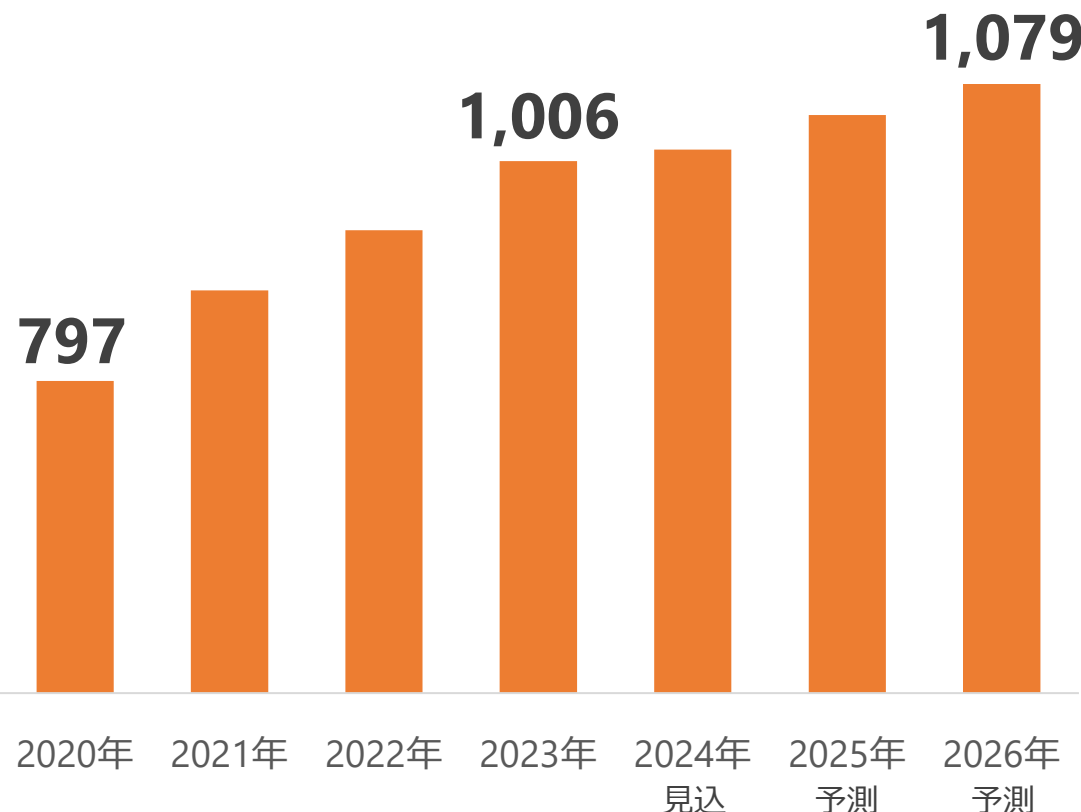


産婦人科領域での年度売上No.1※を達成

※ 自社推計

産婦人科市場規模推移

(単位：億円)



産婦人科市場は持続的な成長を予測

環境の変化

- ✓ 国の女性活躍に関する政策の推進
 - 骨太の方針2025および女性版骨太の方針2025への継続記載
月経、妊娠・出産、更年期等、女性の健康課題と仕事の両立支援
 - 婦人科特定疾患治療管理料の運用開始（2020年）
 - 不妊治療保険適用化（2022年）
- ✓ 女性の社会進出とライフスタイルの変化
 - 女性就業者数の増加、女性管理職の増加
 - 女性の健康課題に対する理解とヘルスリテラシーの向上
メディア、SNS等の露出回数増加
- ✓ 女性疾患に関する医療技術の進化・医療アクセス向上
 - 月経困難症や不妊に対する治療の多様化
 - インターネットの普及やオンライン診療の拡大

ライフイベントの変化による月経回数の増加

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

現代の女性の多くは、昔の女性に比べ初経が早く、晩婚化の傾向にあり出産回数が減少している
生涯に経験する月経回数が増えたことが、月経困難症等の月経トラブルが増えた要因として考えられている

現代女性の月経回数

生涯の月経回数：約**450回**

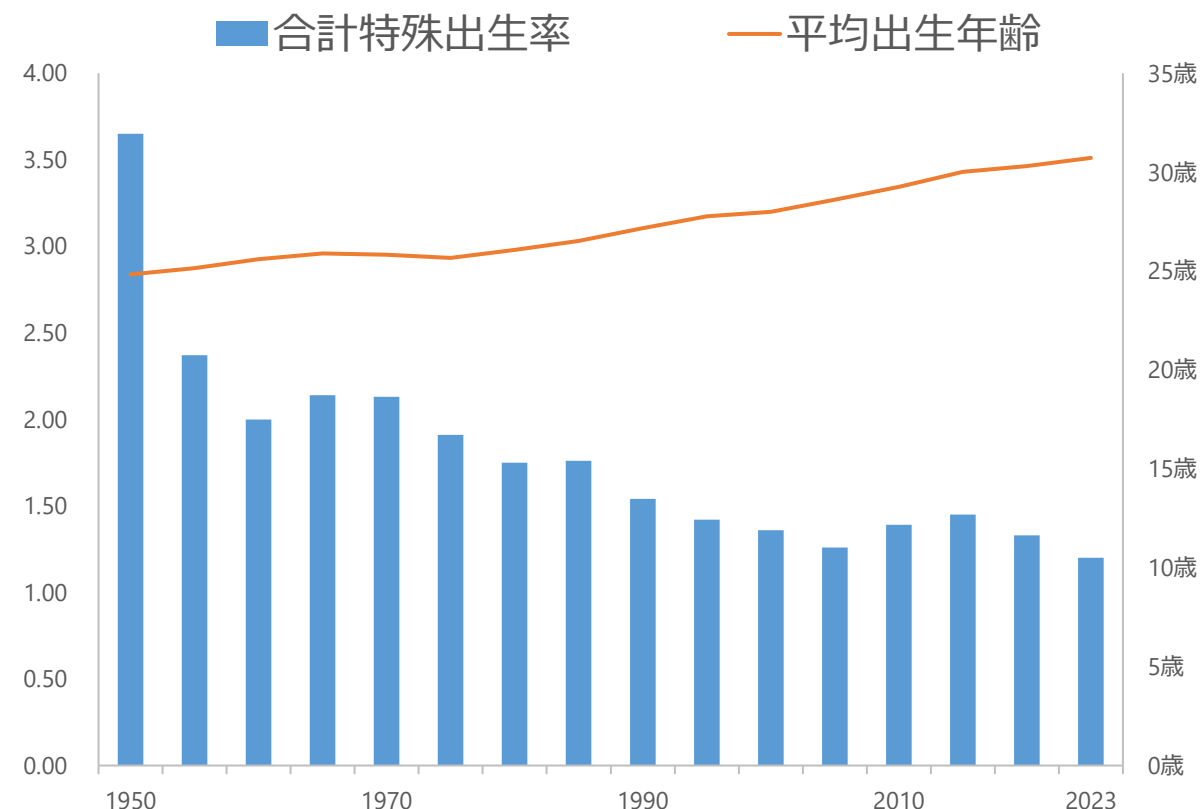
生涯の出産回数：約**2回**

昔の女性の月経回数

生涯の月経回数：約**50回**

生涯の出産回数：約**5回**

出典：Short RV:Proc. R. Soc. Lond B. Biol. Sci. 1976; 195, 3-24.



出典：国立社会保障・人口問題研究所 出生順位別合計特殊出生率および平均出生年齢：1950～2023年

子宮筋腫・子宮内膜症・月経困難症の患者推移

業績

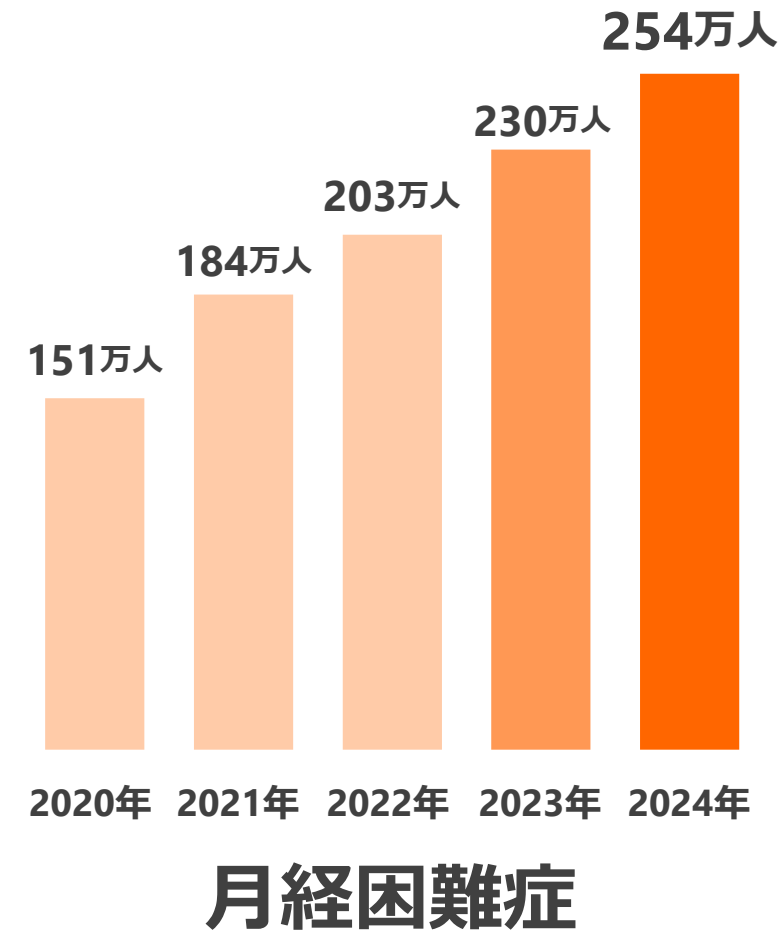
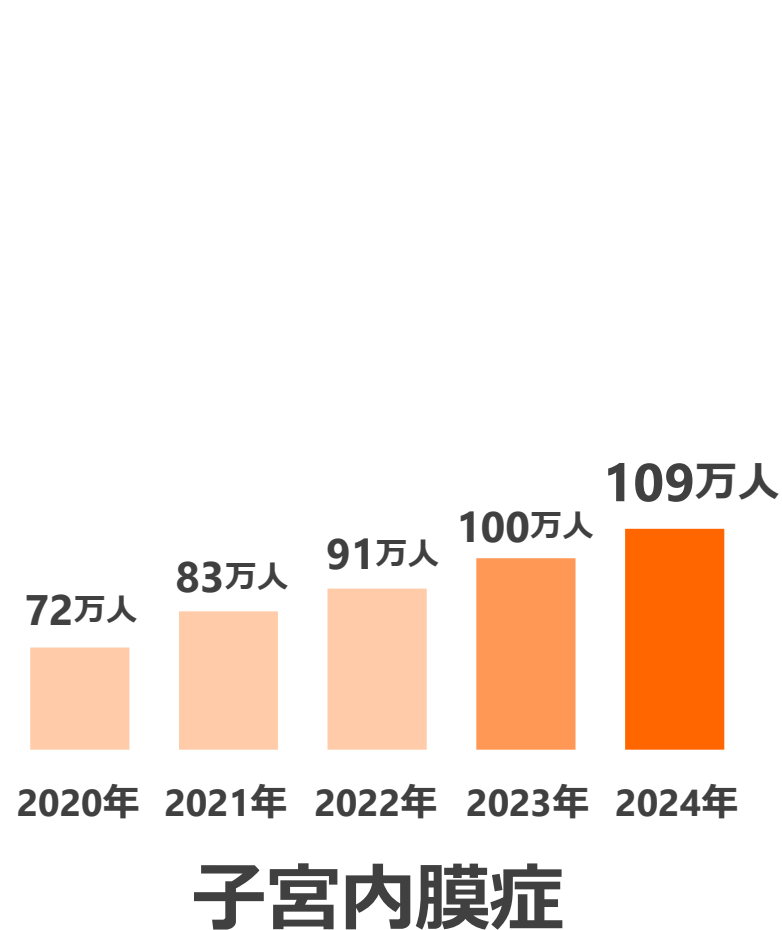
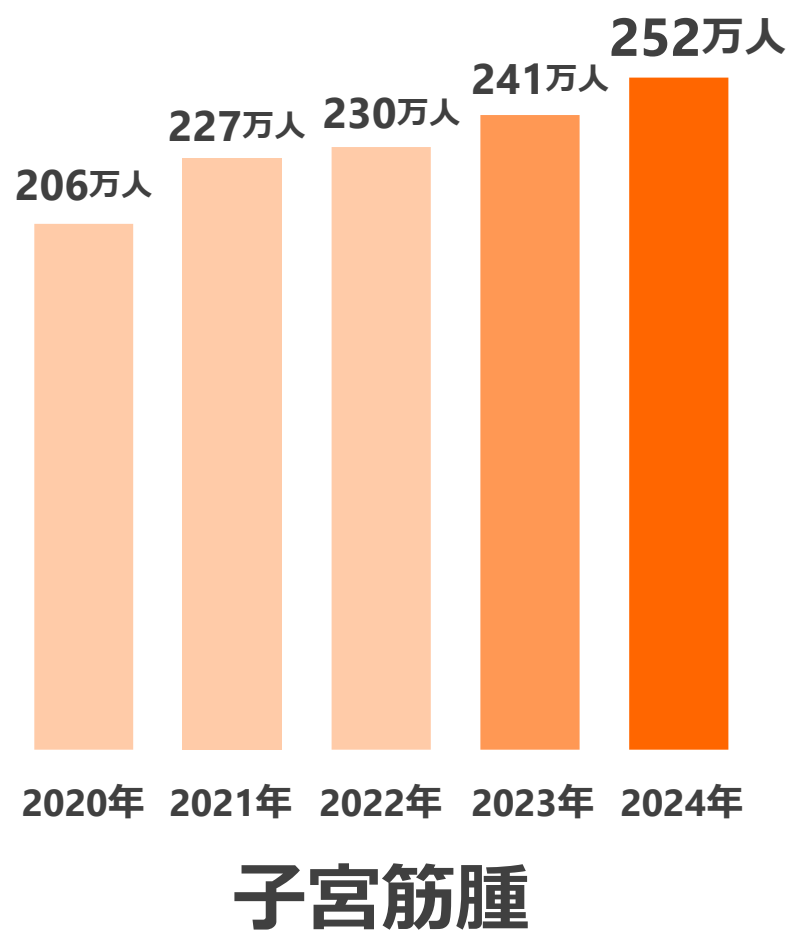
スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

(電子レセプトデータからの拡大推計値、各年1月～12月までの12か月間)



婦人科疾患における患者数の推計（外部データからの自社推計）

業績

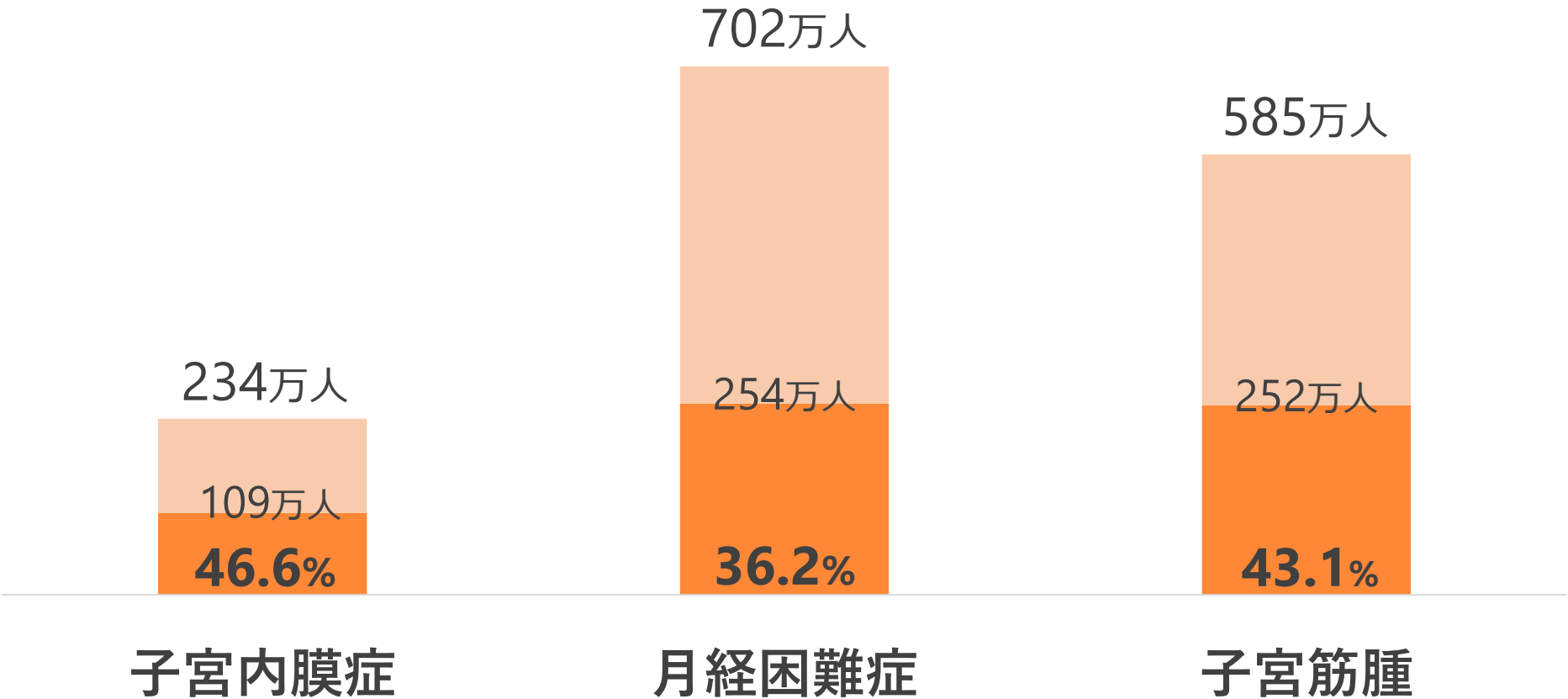
スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

■ 推計実患者数 ※1 ■ 推計潜在患者数 ※2

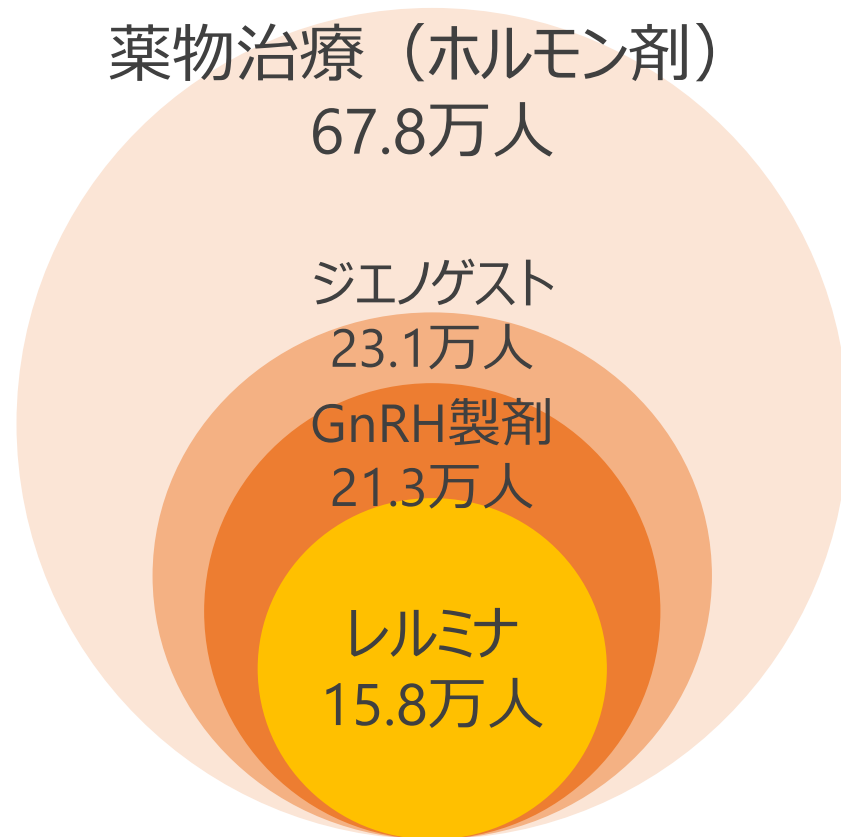


※1 株式会社JMDC調査（電子レセプトデータからの拡大推計値 期間：2024年1月～2024年12月）

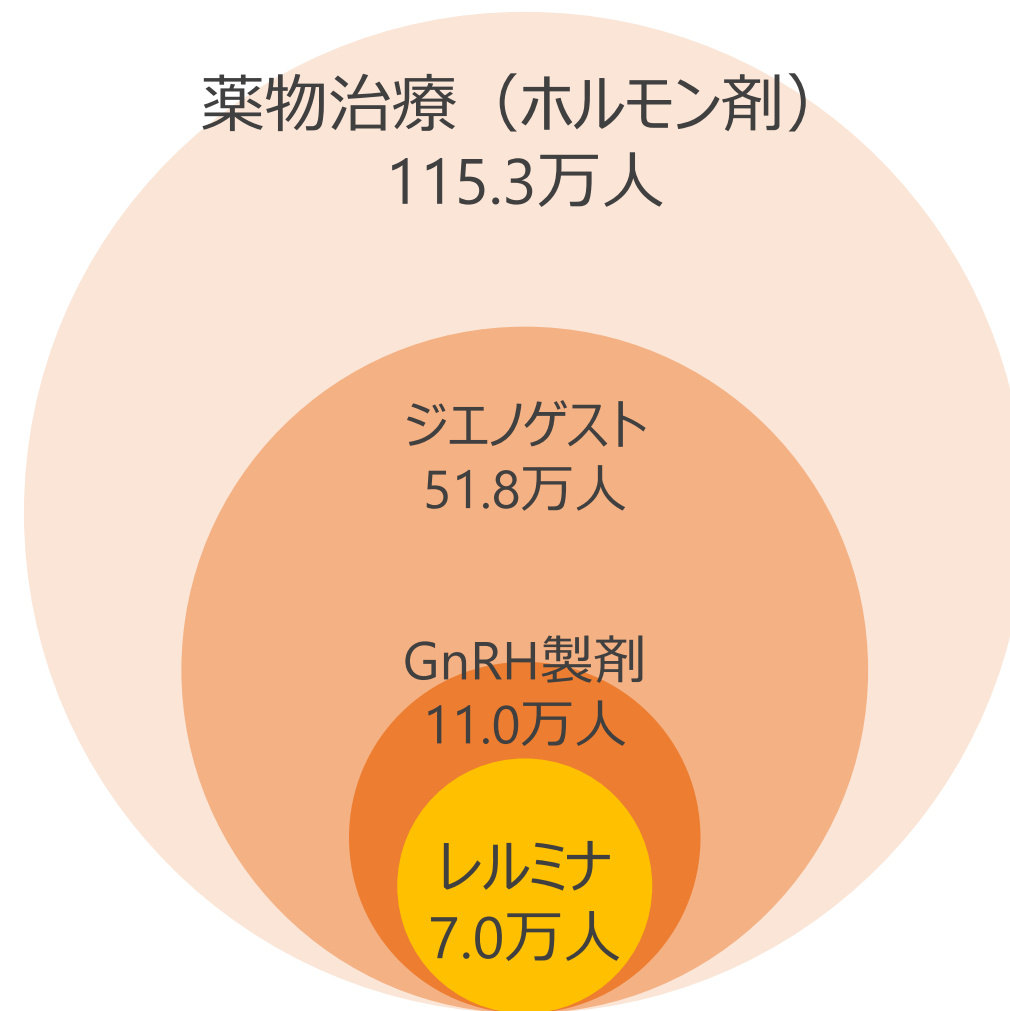
※2 人口統計2024年より15-49歳女性の人口を2,339万人、各種報告より罹患率を子宮内膜症10%、月経困難症30%、子宮筋腫25%と仮定し算出（仮定の出典は下段）

子宮筋腫：子宮筋腫は30歳代以降の女性の30～40%（出典：「子宮筋腫 子宮内膜症 子宮腺筋症 診療マニュアル」百枝幹雄）・生殖年齢女性の20～30%（出典：「子宮筋腫の取り扱い方」岩下光利：婦人科治療2009 Vol.99No.1）
月経困難症：・平成12年度厚生省科学報告：32.8%（鎮痛剤を必要とする月経困難症の割合）・勤務婦人の月経随伴症状に関する研究27.8%（月経時に何らかの症状を認めた割合）・厚生省科学報告（2000年）：33%（中等度以上の月経困難症の割合）
子宮内膜症：・臨産76巻7号2022年7月,618-623・N Engl J Med 2020;382:1244-56・Prescott J, et al : a prospective cohort study of endometriosis and subsequent risk of infertility. hum reprod 31: 1475-1482,2016
・Shafir AL, Farland LV, Shah DK, et al. Risk for and consequences of endometriosis: a critical epidemiologic review. Best Pract Res Clin Obstet Gynaecol 2018;51: 1-15.

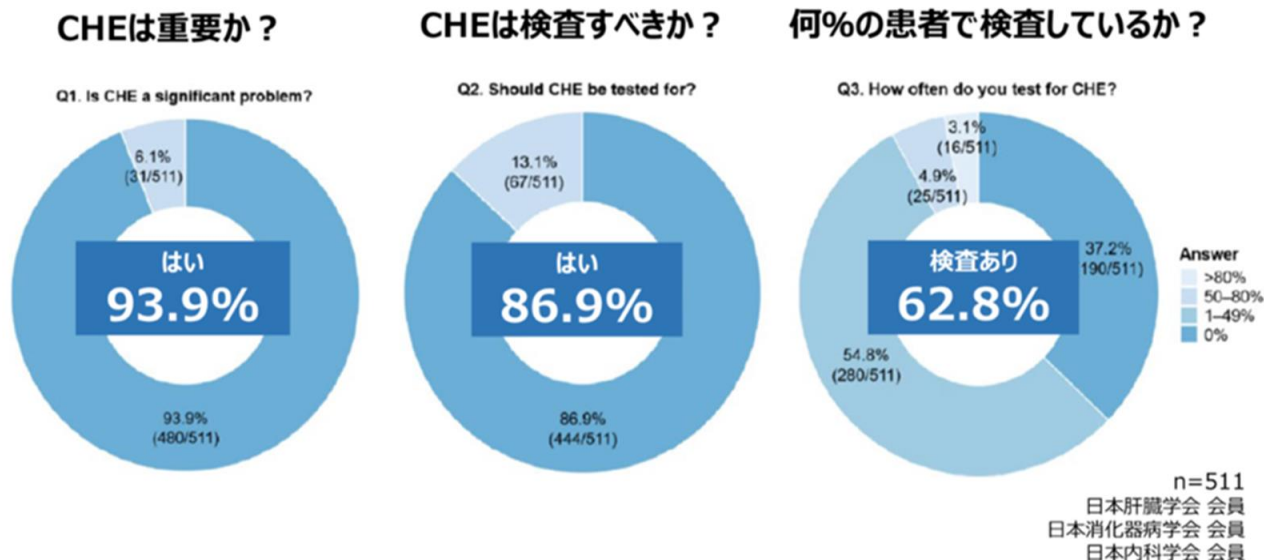
<子宮筋腫>



<子宮内膜症>



● 不顕性肝性脳症※の診療に関する日本での実態調査



Miwa T, et al. J Gastroenterol. 2025; 60 (7) : 866-876.
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

肝硬変診療ガイドラインにおける不顕性肝性脳症の記載

CQ 4-12

(4) 肝性脳症

不顕性肝性脳症に対して治療は必要か？

推奨

- 背景肝の状況が悪化しているなどの高リスクを有する不顕性肝性脳症の症例には治療を提案する。

【推奨の強さ：弱（合意率 100%），エビデンスレベル：B】

【推奨の強さ】

強（強い推奨）：“実施する”ことを推奨する / “実施しない”ことを推奨する
弱（弱い推奨）：“実施する”ことを提案する / “実施しない”ことを提案する

【エビデンスの質】

- A：質の高いエビデンス（High）… 真の効果がその効果推定値に近似していると確信できる。
B：中程度の質のエビデンス（Moderate）… 効果の推定値が中程度信頼できる。
真の効果は，効果の推定値におおよそ近いが，それが実質的に異なる可能性もある。
C：質の低いエビデンス（Low）… 効果推定値に対する信頼は限定的である。
真の効果は，効果の推定値と，実質的に異なるかもしれない。
D：非常に質の低いエビデンス（Very Low）… 効果推定値がほとんど信頼できない。
真の効果は，効果の推定値と実質的におおよそ異なりそうである。

日本消化器病学会・日本肝臓学会 肝硬変診療ガイドライン2020（改訂第3版）より転載

肝硬変合併症の早期診断治療を臨床現場に展開し患者さんのQOLに貢献

※ 臨床症状が乏しい肝性脳症（CHE）。国内でも生命予後を悪化させるという報告もある

甲状腺 啓発活動の成果

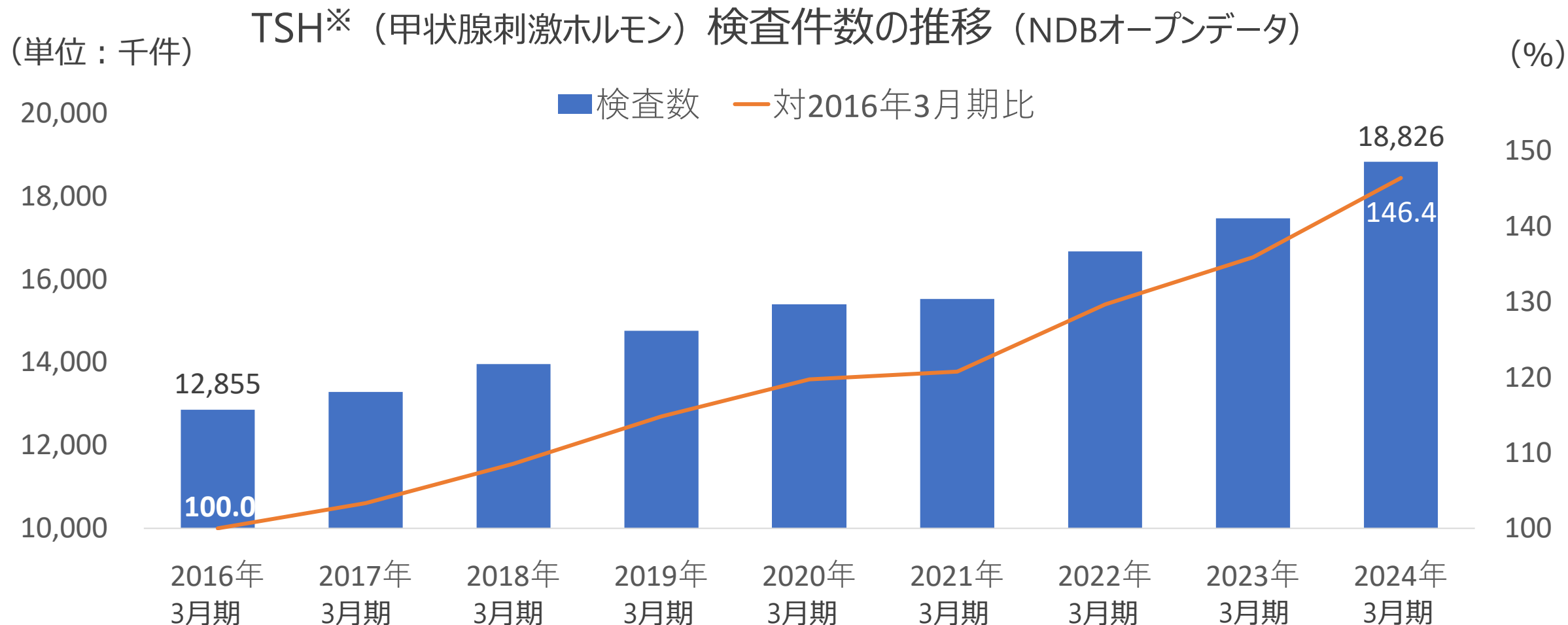
業績

スペシャルティ

研究開発

海外

ESG他

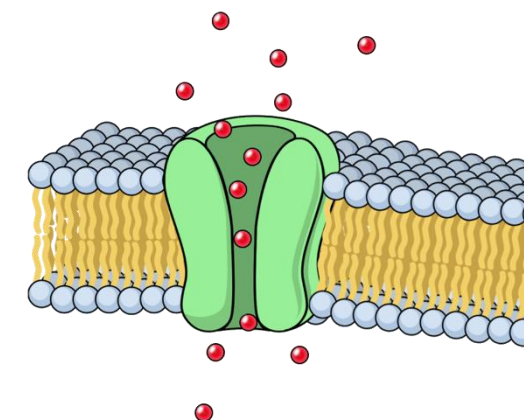


TSH検査は2024年3月期に2016年3月期比1.46倍に増加

※ TSHは脳下垂体から分泌されるホルモンで甲状腺を刺激して甲状腺ホルモンの分泌を増やす作用があります
TSHを測定することで甲状腺ホルモンの過不足を知る事ができます

◆イオンチャネルとは

イオンチャネルは細胞の内外へイオンを透過させる膜タンパク質で、化学伝達物質の放出やホルモン分泌制御などに関与しており、様々な疾患の標的分子として魅力的なターゲット分子です



種類	疾患
Ca ²⁺ チャネル	不整脈、糖尿病、筋ジストロフィー、てんかん、高血圧、片頭痛、筋発育不全、脳梗塞、痛み
Cl ⁻ チャネル	嚢胞性線維症、腎結石症、ミオトニア
K ⁺ チャネル	不整脈、気管支喘息、運動失調、高血圧、心筋梗塞、難聴、糖尿病、てんかん、癌、緑内障、免疫抑制
Na ⁺ チャネル	不整脈、てんかん、片頭痛、ミオトニア、疼痛、麻痺、脳梗塞
リガンド依存性イオンチャネル	アレルギー疾患、気管支喘息、てんかん、逆流性食道炎、片頭痛、パーキンソン病、ハンチントン病、痛み、脳梗塞、胃潰瘍、便秘

Ion Channels as Therapeutic Targets for Multiple Diseases (2002)より改変

AKP-022（子宮筋腫/子宮内膜症治療剤）

業績

スペシャリティ

研究開発

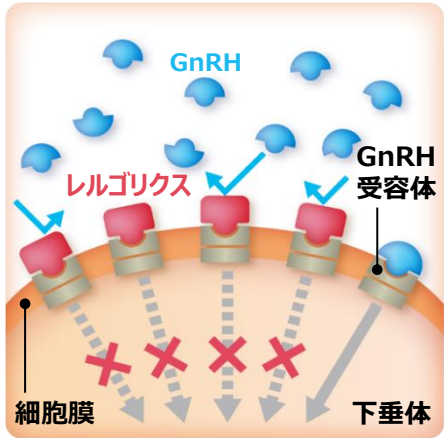
海外

ESG他

AKP-022の概要

一般名	レルゴリクス、エストラジオール、酢酸ノルエチステロン
薬効分類名	GnRHアンタゴニスト
適応症	子宮筋腫、子宮内膜症
特徴	エストラジオール、プロゲステロンの産生を抑制するレルゴリクスに、骨量減少を予防するためのエストラジオール、子宮内膜増殖抑制のための酢酸ノルエチステロンを配合。
開発の意義	レルゴリクスによる症状の改善に加えて、エストラジオールでE2濃度を症状の悪化が無く、閉経期症状（ホットフラッシュ、骨量減少）が発現しない濃度範囲に収め、酢酸ノルエチステロンによりE2による子宮内膜増殖症の発現を抑制することで、 長期間での投与が可能となる事を期待し開発中。 子宮筋腫/子宮内膜症治療において新たな選択肢を提供する。

レルゴリクスの作用機序



GnRH受容体に競合的に結合

FSH・LH分泌抑制

卵胞発育と排卵の抑制

E2・P4の産生抑制

諸症状の改善

AKP-022（レルゴリクス配合剤）の海外承認状況（2025年1月現在）

アメリカ（2021年）、イギリス（2021年）、EU加盟各国（2021年）を始めとする世界48か国で承認を取得。

※ GnRH（ゴナドトロピン放出ホルモン） FSH（卵胞刺激ホルモン） LH（黄体形成ホルモン）
E2（エストロゲン） P4（プロゲステロン）

多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）について

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

多嚢胞性卵巣症候群とは

多嚢胞性卵巣症候群は卵胞の成長が途中で止まり、たくさんの小さな卵胞（嚢胞）が卵巣内にとどまってしまう病気です。卵胞が育たない理由として、ゴナドトロピン分泌異常や男性ホルモン過多が原因だと考えられています。あまり聞きなれない病気かもしれませんが、性成熟期(20代～45歳)の女性の5～8%にみられるといわれています。

主な症状

卵胞が育たず定期的に排卵が起きないため、月経周期に異常（無月経、希発月経）があらわれ、不妊の原因にもなります。その他に、男性ホルモンの影響により毛深くなる、ニキビができる、肥満、血糖値上昇などの症状があらわれることもあります。治療せずに長期間放置すると子宮体がんやメタボリックシンドロームなどのリスクが高くなるといわれています。

診断方法について

以下の3つの特徴を満たす場合、多嚢胞性卵巣症候群と診断されます。

- ① 月経周期の異常がみられる
- ② 超音波検査で卵巣内に発育していない卵胞がたくさんみられる
- ③ 血液検査で男性ホルモンや黄体化ホルモン（排卵をうながすホルモン）が高値になる

治療法について

その時点で妊娠を希望しているかどうかを考慮して治療が進められます。

- 妊娠を希望する場合
ホルモン療法をベースに排卵をうながし、妊娠をめざします。
排卵しやすくするための手術を行う場合もあります。
- 妊娠を希望しない場合
月経をきちんと起こすために、黄体ホルモンやE・P（エストロゲン・プロゲステロン）配合剤が処方されます。
また、肥満をとまなう場合は症状が重くなりがちのため、減量を含めたライフスタイルの改善が必要とされます。

フィリピン MedChoice社との協業

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

FTS Ambrose社を持分法適用関連会社化



2025年3月プレスリリース

- FTS Ambrose社傘下のMedChoice社は優れた営業販売力とマーケティング力を有する
- 特定分野・慢性疾患をターゲットとするスペシャリティファーマを標榜

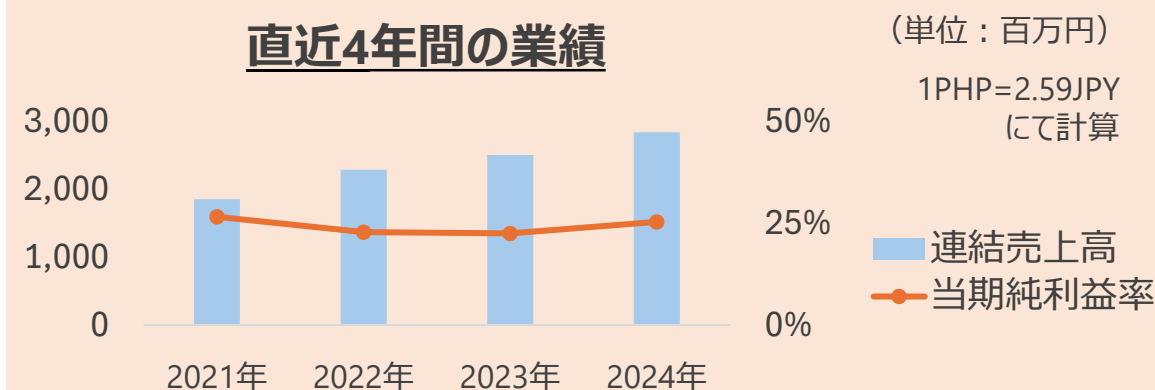
フィリピンの医薬品市場

- 約**7,000**億円※1（2023年時点）の医薬品市場
- 年**10.2%**※2（2018-2023年）の医薬品市場の成長
東南アジア諸国と比較して高く、今後も高成長が見込まれる
- 医薬品産業の外資規制が限定的（東南アジア諸国と比較）
医薬品輸出入ビジネスが自由な他、外資企業に対する制約が少ない

MedChoice社の概要

正式名称	Medchoice Pharma Holdings, Inc. (FTS AMBROSE HOLDINGS, INC.の100%子会社)
所在地	フィリピン モンテルパ市（マニラ首都圏）
代表者	Chairman・Ambrosio V. Padilla III
従業員数	170名
特徴	2005年設立の非上場ブランドジェネリック製薬会社 内分泌・中枢神経領域の医薬品を多数展開 甲状腺ホルモン製剤シェア フィリピン2位

直近4年間の業績



スペシャリティ領域におけるシナジー創出を狙う

※1 IQVIA, Forecast linkに基づく自社推計 無断転載禁止

※2 Copyright 2025 IQVIA Incorporated. All rights reserved.

社会貢献活動：女性のための健康ラボMint+の取り組み

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他



創立100周年を機に2020年より運営開始

女性のための健康ラボ Mint+



キーメッセージ

知ることは、自分を守ること。

医師監修のもと、正確な情報を発信し
女性に関するヘルスリテラシー向上に貢献

Mint+ Hug 子育てをしている方々向けウェブサイト



妊娠・出産・乳幼児の
健康にフォーカス

- ママのためのコラム
 - 新生児・乳幼児のためのコラム
 - 子育てお助け情報
- ※随時更新中

Mint+ teens

ティーンズ世代向けウェブサイト



フェムナレッジ

企業向け動画研修サービス



ESGマテリアリティを11→6に再編、女性の健康への貢献

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

ESGマテリアリティ（再編）

環境

- 環境経営の推進

社会

- 企業価値向上のための多様な人材の育成
- **女性の健康とアニマルヘルスに貢献する**
- 高品質な製品の安定供給と適正情報提供
- 人権の尊重

ガバナンス

- ガバナンス強化

女性が充実した日々を過ごすために取り組むべき課題

当社が試算した月経随伴症状に関わる経済損失

あすか製薬の取り組みを通じて、**813億円**の経済損失の削減に貢献
(疾患啓発による定量的効果を新たに算定)

月経随伴症状の
ケアをしなかった場合の
経済損失額

1兆543億円

月経随伴症状のケアを通じた
経済損失削減額

5,926億円

あすか製薬による
経済損失削減額

813億円

あすか製薬の医薬品による
経済損失削減額

488億円

あすか製薬の疾患啓発による
経済損失削減額

325億円

残された課題

月経随伴症状による
現在の経済損失額

4,617億円

「産婦人科領域のリーディングカンパニー」として女性の健康をめぐる社会課題を解決する

(出所) 経済産業省「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」(令和6年2月)

あすか製薬株式会社「働く女性を対象とした月経随伴症状のセルフケアに関する実態調査」(2025年9月)

※詳しくは、統合報告書「ASKA HD REPORT 2025」5ページ～10ページをご覧ください (https://ssl4.eir-parts.net/doc/4886/ir_material3/261164/00.pdf)



ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

環境に対する取り組み

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

あすか製薬のCO₂排出量

2013年度

17,726 t-CO₂



2024年度

8,234 t-CO₂

53.6% 削減

CO₂削減の取り組み

- いわき工場におけるコージェネレーションの導入
- 社用車の環境配慮型車両の導入
- 本社LED化
- いわき工場グリーンエネルギーへの切り替え促進
- 本社使用電力の再エネ化
- オンサイト PPA による太陽光発電電力の受電
- 環境に配慮した医療用医薬品(チラーヂン)の包装変更

TNFD提言への対応

TNFD提言に賛同するとともに、
2025年8月より「TNFDフォーラム※」に参画

提言への対応に向けたステップ

- ① 社内意識の向上と方向性の共有
全社員を対象にオリジナル研修動画を配信
- ② 自然関連課題の評価・管理
「LEAPアプローチ」を用い、財務への影響を評価するプロセスを
進行中（現時点で「事業レジリエンス」まで開示）
- ③ 事業との関連性
人と動物が共生できる社会づくりに貢献
事業と自然との関連性を強く認識

生態系保全への取り組みを深化させ
持続可能な社会づくりに貢献します

※自然に関する企業のリスク管理と開示の枠組みを構築するために2021年6月に設立された国際組織、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）での
議論を、専門知識を提供するステークホルダーとしてサポートする国際組織

●詳しくは、統合報告書「ASKA HD REPORT 2025」62ページ～66ページをご覧ください（https://ssl4.eir-parts.net/doc/4886/ir_material3/261164/00.pdf）



ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

人的資本の取り組み

業績

スペシャリティ

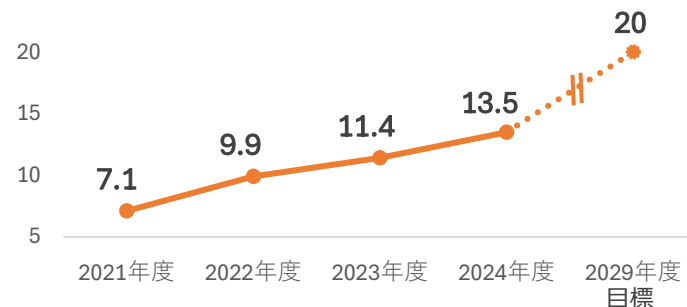
研究開発

海外

ESG他

女性活躍

正規従業員における女性管理職比率



「東京都女性活躍大賞」初受賞

東京で輝く、
自分らしく。



健康経営

社内制度

ワークサポート応援金

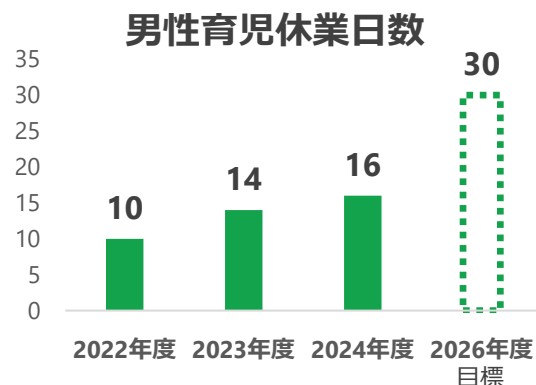
ライフイベントにより一時的に職場を
離れる者の業務をサポートした
従業員に対し半年ごとに支給



7年連続
達成

次世代育成

男性育児休業取得率は100%を達成



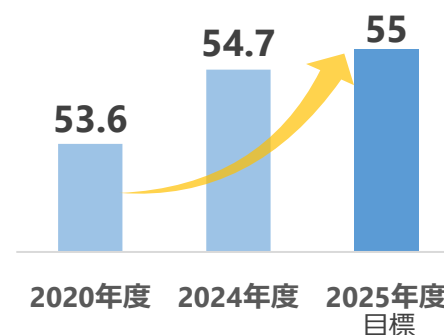
「Nextなでしこ 共働き・共育て支援企業」
初選定



経営陣との対話の 機会創出

回数：62回
時間：113時間
(2024年度実績)

ワークエンゲージメント（偏差値）



経営陣との対話によりワークエンゲージメント向上につながる

イニシアティブ・社外評価

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

イニシアティブ

WE SUPPORT



Forum
Member



ESG外部評価



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



FTSE Blossom
Japan Index



外部評価



ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

統合報告書2025の紹介

業績

スペシャリティ

研究開発

海外

ESG他

URL : https://www.aska-pharma-hd.co.jp/invest/library/aska_report.html

トピックス

- 会長・社長メッセージ
- 事業別 社長のメッセージ
- 女性医療に関わる創出価値
- 4ページにわたる財務資本戦略
- 社外取締役座談会（女性医療・ガバナンス）



信譽創造ストーリー

会長メッセージ

次世代につなぐ経営のバトン
——成長の軌跡とこれからの挑戦

あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役会長
山口 隆



信譽創造ストーリー

社長メッセージ

創造と挑戦でトータル
ヘルスケアカンパニーの
未来を切り拓く

あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長
山口 惣大



あすか製薬ホールディングスグループの強み

成長の源泉

内分泌の研究・開発に長年に
わたり特化し

100年超

多種多様な製品を開発・発売

あすか製薬

産婦人科領域

リーディングカンパニー

産婦人科領域売上No. 1※

※自社推計：2025年3月期

あすか製薬

甲状腺領域

リーディングカンパニー

国内甲状腺製品シェア95%

あすかアニマルヘルス

製品ラインナップ

飼料添加物

産業動物用医薬品

コンパニオンアニマル用医薬品

様々な製品を発売

あすか製薬メディカル

分析技術

内因性ホルモン微量分析

非侵襲性検査事業の拡大

あすか製薬ホールディングス

シナジーの創出

グループ間連携の深化

各分野での連携・協業



お問い合わせ先

グループ経営企画部

e-mail : kouhou@aska-pharma.co.jp